

志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（20）

県営畠地帯総合土地改良事業曾於郡東部二期地区（二反野工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

西 原 A 遺 跡
二 反 野 遺 跡

1991年3月

鹿児島県曾於郡志布志町教育委員会

序 文

本町は埋蔵文化財包蔵地が多く、前川・安楽川の流域を中心に約200箇所の周知の遺跡が知られております。

近年、宅地開発や農業基盤整備事業の増加に伴い、これらの遺跡の緊急確認調査もまた急増しております。

今回発掘された二反野・西原Aの両遺跡の確認調査も県営畠地帯総合土地改良事業曾於東部二期地区二反野工区の実施に先立って行われたものです。

ここにその調査結果を報告書として刊行いたしますが、この資料が歴史解明の一助となり、文化財の保護と学術研究のために広く活用されれば幸いです。

発刊に当たり、発掘を担当された各調査員はじめ指導者・作業協力者、又調査にご協力を頂きました土地所有者・並びに関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

志布志町教育委員会

例　　言

- 1、この報告書は、1990年11月に実施した県営畠地帯総合土地改良事業曾於東部二期地区（二反野工区）に伴う発掘調査の報告書である。
- 2、発掘調査は、鹿児島県農政部（農地整備課）からの受託事業として志布志町が受託し、調査主体者となり実施した。発掘調査は鹿児島県教育庁文化課の指導・協力を得た。
- 3、本書で用いたレベル数値は、県農政部で作成した地形図に基づく海拔高である。
- 4、遺物番号は、本文及び挿図・図版の番号と一致する。
- 5、遺物の実測・トレイス及び写真撮影は堂込が行った。
- 6、本書の執筆は以下のように分担した。

第1章、第2章……………米元

第3章、第4章……………堂込



西原A遺跡 出土石製勾玉及び土製勾玉

本文目次

序文

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の概要	6
第1節 調査の概要	6
第2節 西原遺跡の調査	10
1、各トレンチの状況	10
2、西原A遺跡緊急発掘調査	14
3、遺構	14
4、遺物	14
土器	14
石器	33
第3節 二反野遺跡の調査	46
1、調査の概要	46
2、遺物	48
第4章 まとめ	51

表 目 次

第1表 周辺遺跡地名表	4
第2表 西原A遺跡出土土器観察表(1)	40
第3表 西原A遺跡出土土器観察表(2)	41
第4表 西原A遺跡出土土器観察表(3)	42
第5表 西原A遺跡出土土器観察表(4)	43
第6表 西原A遺跡出土土器観察表(5)	44
第7表 西原A遺跡出土石器計測表	44
第8表 二反野遺跡出土土器観察表	49
第9表 二反野遺跡出土石器計測表	49

挿図目次

第1図	周辺遺跡位置図	5
第2図	土層模式柱状図	6
第3図	調査地区、谷部・削平見取り図	7
第4図	西原A遺跡、西原B遺跡、二反野遺跡地形図及びトレンチ配置図	8
第5図	西原A遺跡、西原B遺跡、二反野遺跡工事設計図	9
第6図	2・3・4トレンチ土層断面図	11
第7図	5トレンチ遺物出土状況及び土層断面図、6トレンチ土層断面図	13
第8図	西原A遺跡グリット配置図及びIIIc層上面コンタ図	15
第9図	西原A遺跡1号土坑検出状況及び遺構図	16
第10図	西原A遺跡磨石・石皿出土状況	17
第11図	西原A遺跡A・B区遺物出土状況	18
第12図	西原A遺跡D区遺物出土状況	19
第13図	出土土器(1)	20
第14図	出土土器(2)	21
第15図	出土土器(3)	22
第16図	出土土器(4)	23
第17図	出土土器(5)	24
第18図	出土土器(6)	25
第19図	出土土器(7)	26
第20図	出土土器(8)	27
第21図	出土土器(9)	28
第22図	出土土器(10)	29
第23図	出土土器(11)	30
第24図	出土土器(12)	31
第25図	出土土器(13)	32
第26図	出土石器(1)	34
第27図	出土石器(2)	35
第28図	出土石器(3)	36
第29図	出土石器(4)	37
第30図	出土石器(5)	38
第31図	出土石器(6)	39
第32図	二反野遺跡土層断面図	45
第33図	二反野遺跡IV層遺物出土状況	46
第34図	二反野遺跡1号集石遺構	46
第35図	二反野遺跡出土土器(1)	47
第36図	二反野遺跡出土土器(2)	48

第37図	二反野遺跡出土石器（1）	50
第38図	二反野遺跡出土石器（2）	51

図 版 目 次

巻頭カラー 西原A遺跡出土勾玉

図版1	二反野遺跡・西原遺跡遠景	53
図版2	西原A遺跡《表土羽ぎ・発掘作業風景・遺物出土状況》	54
図版3	西原A遺跡《各トレンチの土層》	55
図版4	西原A遺跡《遺物出土状況・1号土坑検出状況》	56
図版5	西原A遺跡《1号土坑完掘状況・1号土坑遺物出土状況》	57
図版6	西原A遺跡《磨石・石皿等出土状況》	58
図版7	西原A遺跡《N o 51、土製勾玉出土状況・Ⅲc層上面》	59
	二反野遺跡《近景・遺物出土状況・集石遺構土層》	59
図版8	西原A遺跡《精製浅鉢形土器、2·3·5·12·18·19·21·25·40·51》	60
図版9	西原A遺跡《粗製浅鉢形土器、59·60·72·99·100·80·81·84》	61
図版10	西原A遺跡《胴部、102·134·148·164·199 リボン状突起、149·153 底部、205 調整痕、97·102·122》	62
図版11	西原A遺跡《調整痕、84·167·186 石器、210~213·216· 218·219~222》	63
図版12	西原A遺跡《磨石、敲石、石皿、223~237》	64
図版13	二反野遺跡遺物《244·245·249·250·252·253·254·258·241· 251·260~266》	65

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会(以下県文化課)では、県下の市町村教育委員会と連携し、文化財の保存・活用を図るために、各開発機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県農政部農地整備課(大隈耕地事務所)は志布志町内において県営畠地帯総合土地改良事業(曾於東部二期地区二反野工区)の計画策定にあたり事業地区内の埋蔵文化財の有無について県文化課に照会した。

これを受け文化課は、調査に先立ち当該地区の埋蔵文化財分布調査を志布志町教育委員会社会教育課と実施した。

分布調査の結果、当該事業区域内には「周知の遺跡」である二反野遺跡・西原遺跡が含まれており、土器片などの遺物が散布しているのが確認された。このため事業着手前に遺跡の範囲・性格などを把握するための確認調査を実施することとなった。

発掘(確認)調査は、県農政部(農地整備課・大隈耕地事務所)からの受託事業として、志布志町教育委員会が調査主体となり、県文化課の協力を得て平成2年1月6日から1月21日までの延べ16日間実施した。

第2節 調査の組織

調査主体者	志布志町教育委員会		
調査責任者	志布志町教育委員会	教 育 長	野間 隆
調査事務	タ	社会教育課長	慶田泰輔
	タ	課長補佐	井手富男
	タ	文化体育係長	下平晴行
	タ	主 査	米元史郎
	タ	主 事	中庭 徹
	タ	主 事	荒平安次
	タ	主 事	松崎陽子
調査担当者	鹿児島県教育庁文化課 志布志町教育委員会	文化財研究員 主 査	堂込秀人 米元史郎

なお、調査の企画等において、鹿児島県教育庁文化課長吉井浩一、同補佐濱松巖、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸、同企画助成係長京田秀尤、同係の各氏の指導・助言を得た。

第3節 調査の経過

- 1月 6日(火)二反野・西原遺跡調査開始。用具搬入・設営。調査についての説明。
1, 2, 3, 4, 5 T(トレーナー)設定・掘下げ。1, 5 T遺物出土。5 T完掘。
6 T設定・掘下げ。2, 3, 4, 5, 6 T位置図作成。
- 1月 7日(水)1, 2, 3, 4, 6 T掘下げ。1, 5 T遺物出土状況写真撮影・平板実測。
7, 8, 9 T表土重機除去。2, 3, 4 T完掘。
1 T西の畝一段目と二段目並びに4 Tの隣接地表土を重機除去。
- 1月 8日(木)6 T完掘。7, 8, 9 T設定・掘下げ・遺物出土。5, 6 T間表土重機除去。
10, 11, 12 T設定・掘下げ。2, 3, 4, 5, 6 T土層断面実測。
- 1月 9日(金)8, 10, 11, 12 T掘下げ・完掘。二反野遺跡4箇所をボーリング調査。
3遺跡の範囲確定。西原A・B遺跡名称決定。
大隅耕地・町耕地地課と現地協議し西原Aと二反野道路部分の発掘を決定。
- 1月 13日(火)西原A遺跡グリッド設定・測量。グリッドABC区の表土重機除去。
ABC-1 2 3 4 5 6区掘下げ。A-2・3・4, B-1・2・3・4
区より遺物出土。A-5・6, B-5・6, C区III a層完掘。
- 1月 14日(水)A・B-1・2・3・4区掘下げ・遺物出土状況写真撮影・平板実測。
A・B-5区III b c層重機除去後VI層まで掘下げ。B-4区土坑検出。
- 1月 15日(木)A・B-1・2・3・4区掘下げ・遺物出土状況写真撮影・平板実測。
A・B-5区掘下げ。AB-1・4区III a層完掘。B-4区土坑完掘。
- 1月 16日(金)A・B-2・3区掘下げ・遺物出土状況写真撮影・平板実測。
A・B-5区掘下げ・完掘。グリッドDE区の表土重機除去。
- 1月 19日(月)A・B-2・3区掘下げ・III c層完掘。地形測量。
D-E-4・5・6区掘下げ。
- 1月 20日(火)DE-4・5・6区掘下げ・遺物出土状況写真撮影・平板実測。E区完掘。
- 1月 21日(水)D-4・5・6区掘下げ・遺物出土状況写真撮影・平板実測。
- 1月 22日(木)D-4・5・6区掘下げ・III a層完掘。遺物出土状況写真撮影。
平板実測。地形測量。
(別地区確認調査のため一時移動)
- 1月 18日(火)二反野遺跡道路部分表土重機除去後掘下げ。遺物出土。集石遺構出土。
- 1月 19日(水)二反野遺跡道路部分掘下げ。遺物出土。集石遺構検出。
- 1月 20日(木)二反野遺跡道路部分掘下げ。遺物出土状況写真撮影・平板実測。
- 1月 21日(金)二反野遺跡道路部分掘下げ・完掘。壁面土層断面実測・写真撮影。
調査完了。現場片付け・遺物搬出・機材用具点検後搬出・水洗後収納。

第2章 遺跡の位置と環境

本町は鹿児島県の東端で、志布志湾の湾奥に位置し、海岸線は東西に約10km、内陸部に向かって約20kmで南北に延びる釣鐘型の形状をなしている。

北東から東へ宮崎県都城市及び串間市と接して県境をなし、北西から西へは鹿児島県の末吉町・松山町・有明町とそれぞれ接している。

南面する海岸線は、ほぼ中央に位置する市街地を挟んで、西側は砂浜海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成された山稜が海までせまり岩礁海岸となっている。

尚、市街地は比高40m程のシラス台地の海食崖下に発達した古期砂丘帶上に立地しているが、これは約6000年前の縄文海進の名残と考えられる。

内陸部の地形は、山地と台地それに河川に沿って小規模に発達した沖積低地に大別できる。

北部から東部にかけての山稜地帯は、日南層群と呼ばれる新生代古第三期の海成層からなる南那珂山系の西端域となっている。さらに西に広がる広大なシラス台地（曾於丘陵地）には、この山系より派生する残丘状山地が北東より南西へ比較的散発的に、次第に小起伏となって延びている。

シラス台地は、河川の活発な浸食作用によって深い谷で分断され、さらにその支流によって樹枝状に括がった谷頭漫食で細かく刻み込まれており大小幾多の台地が形成されている。

また、谷底の低地とは急斜面や垂直崖によって区切られている。

町内を流れる主な河川は、西に延長24kmの安楽川が、東に延長15kmの前川がそれぞれ並行して南流しており、これらの河川の中流から下流域には中小の河岸段丘や谷底平野が随所に形成されている。

このような地形のため、町内に分布する約200箇所の遺跡の多くは台地上に立地しているが、内陸山間部では、山稜に附隨するそれぞれ独立した小規模な山麓舌状台地の基部（谷あいの湧水を利用するタイプ）、あるいはその縁辺部（台地下の河川を利用するタイプ）に立地しており、さらに南部の広い台地では、水源に違い台地中央に遺跡の立地は見られず、その縁辺もしくは台地に付隨する河岸段丘上に集中しているのが一般的な傾向である。

以上、町内の遺跡立地に伴う地形的環境を概観してきたが、今回、調査対象となった二反野・西原A・西原Bの3遺跡も、帖地区二反野台地内の隣接する遺跡でありながら、その立地形態には若干の相違が見られる。

まず二反野遺跡は、二反野集落の背後にそびえる標高280mの山稜に付隨した山麓舌状台地の基部にあり、西原A遺跡は台地内に入込んだ浅い谷に挟まれた尾根筋に立地し、西原B遺跡はこの台地の縁辺部に立地している。尚、二反野遺跡は標高82m、西原B遺跡は同65mに立地しており、同一台地内でありながらこれら3遺跡の比高差は約17mとなっている。

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	出土遺物等	備考
1	東原	帖東原	台地縁辺	繩文早・前・晚	塞之神式・曾烟式・配石・石鏡	S 62調査報告(12)
2	洞ヶ野	洞ヶ野	台地縁辺	早・前・後・晚	前平式・轟式・岩崎上層式・擬錫文	S 62調査報告(12)
3	出口A	出口	河岸段丘	弥生	双角石器	志布志町誌上巻
4	出口B	・	台地縁辺	早・晚	前平式・塞之神式・三万田式・薦底	S 62調査報告(12)
5	家野	家野	台地尾根	後・弥生	指宿式・市来式・草野式	
6	柳井谷	柳井下	台地前面	創・前・中・後・晚	岩崎下層式・指宿式・市来式・黒川式・抉狀耳飾	S 59調査報告(6)
7	鎌石橋	鎌石	河岸段丘	旧石器・繩文創	細石刃・細石核・隆蒂文	鹿考古16号
8	鎌石	・	台地尾根	繩文早・晚・他	吉田式・黒川式・唐目文・須恵器・土師器・近世墓	H 2調査報告(16)
9	二反野	二反野	台地基部	早・前・晚	吉田式・石坂式・塞之神式・曾烟式・夜臼式	H 2調査報告(20)
10	西原	西原	台地尾根	晚	黒川式・土製勾玉・石製勾玉	H 2調査報告(20)
11	下田	下田	台地前面	繩文早	塞之神式・耳栓・石匙・石鏡	
12	山之上	石踏	台地縁辺	旧石器・繩文早	石核・石坂式・塞之神式	鹿考古5号
13	別府石舗	・	台地縁辺	繩文早・前・中・晚	吉田式・石坂式・塞之神式・轟式・曾烟式・岩崎式・黒川式	S 53調査報告(3)
14	野久首	野首	台地基部	早・前・後・晚	燃糸文・轟式・曾烟式・春日式・指宿式・黒川式・御領式	S 53調査報告(2)
15	深追	夏井深追	台地尾根	繩文・弥生		
16	夏井土光	土光	台地縁辺	早・前・晚・弥	夜臼式・リーマー・抉入片刃磨製石斧・住居址	
17	小測	帖高濱	台地前面	早・晚・弥生	岩崎上・下層式・指宿式・市来式・草野式	S 42調査鹿考古5号
18	飛渡	飛渡	台地尾根	晚・弥・古	黒川式・孔列文・山之口式・石槍・円盤石斧	S 63調査報告(13)
19	島廻	島廻	台地縁辺	繩文早・弥生中	前平式・吉田式・石坂式・平脩式	S 63調査報告(13)
20	上田屋敷	上田屋敷	台地縁辺	繩文早・弥生中	前平式・吉田式・石坂式・黒川式・山之口式	H 1調査報告(15)
21	下牧	下牧	台地縁辺	繩文・弥生	円筒土器	H 1調査報告(15)
22	横峯	前追	台地縁辺	繩文中・弥生	石斧・敲石・砥石	
23	上佐野原	上佐野原	台地縁辺	繩文・弥生		



第1図 周辺遺跡位置図

第3章 調査の概要

第1節 調査の概要（第3図～第5図）

二反野遺跡と西原遺跡は前川の南岸に位置し、北西方向に約25mほどの高低差で傾斜していく台地状の地形に存在する。南側は深い谷があり、二反野遺跡はその谷頭にも位置している。現在は、最も高所の中心部が山として残っているが、ほとんどが畠地として利用されている。台地状といっても、第3図にあるように3本の深い谷が入っており、個人で重機により畠地造成がなされ、かなりの削平がなされている。確認調査は、谷の部分と明らかな削平部分を除き、尾根に当たる部分を中心として行った。まず任意に2×4mのトレンチを1トレンチから6トレンチまで設定した。この結果1トレンチと5トレンチで遺物が出土したため、遺跡範囲を確認するため、1トレンチの周囲にはほぼ1m幅で長いトレンチを設定し（7・8・9トレンチ）、さらに5トレンチから6トレンチに向ても同様のトレンチを設定した。前者を西原A遺跡とし、後者を西原B遺跡とする。この段階で層位を把握した。

層位は第2図にあり、基本的に以下のようなになっている。

	I層 暗茶褐色土～黒褐色土
I a	II層 黒色土層 6トレンチで把握した。一般に古墳時代以降の遺物を包含する層である。
I b	III層 喜界カルデラを噴出源とする火山灰を起源とするものである。アカホヤといわれる。
II	III a層 暗橙褐色火山灰土層 アカホヤ火山灰の2次堆積層で、縄文時代前期から晩期の時期の遺物を包含する。西原遺跡では縄文時代晩期の遺物が、二反野遺跡では縄文時代前期と晩期の遺物が出土した。
III a	III b層 橙褐色火山灰層 白色軽石を混入する。アカホヤ火山灰の1次堆積層である。
III b	VII c層 赤橙色軽石層 火砕流噴出物堆積層である。
III c	IV層 茶灰色土層 縄文時代早期に相当する層で、二反野遺跡において遺物が出土した。
IV	V層 暗茶褐色土層 縄文時代早期に相当する層である。
V	VI層 橙灰色軽石層 「薩摩」と称される火砕流噴出物である。一般に約11,000年前に比定される。
VI	VII層 暗茶褐色粘質土層 「チョコ層」といわれる層にあたる。
VII	VIII層 茶灰褐色粘質土層 2次シラスの堆積層と判断される。

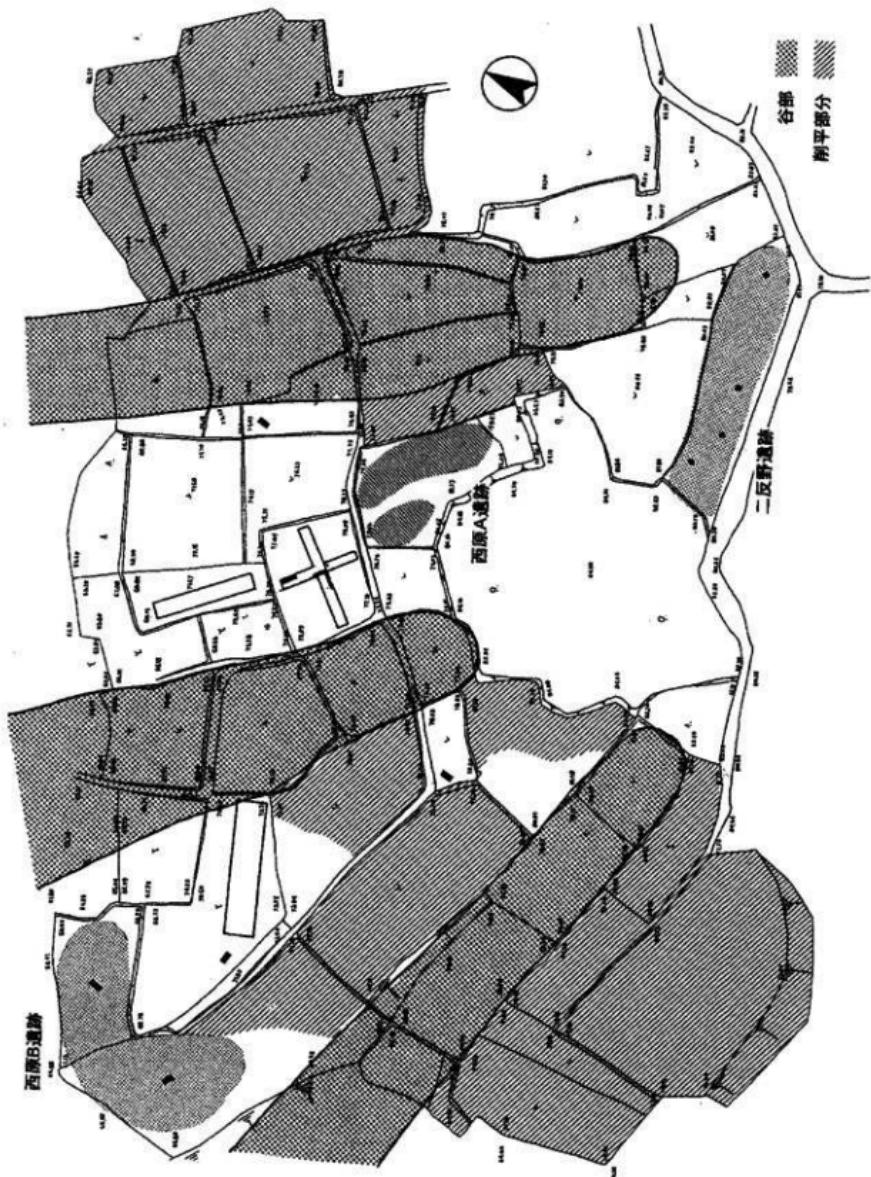
第2図 土層模式柱状図

V層 暗茶褐色土層 縄文時代早期に相当する層である。

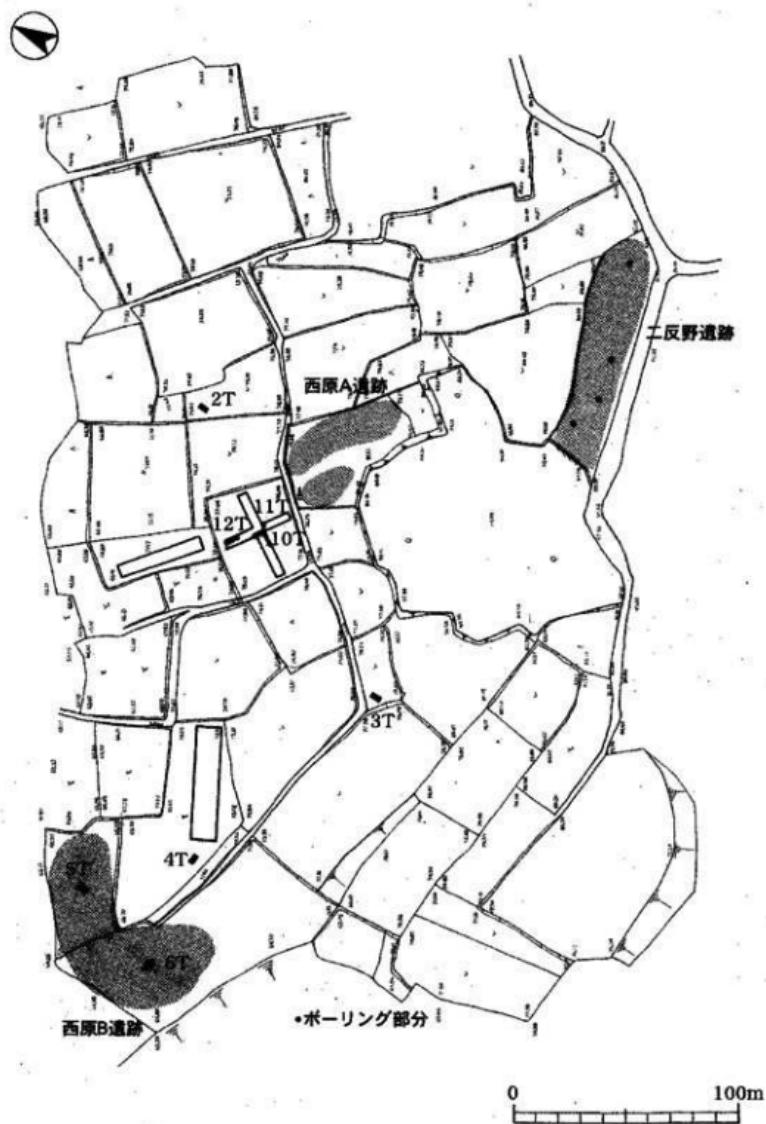
VI層 橙灰色軽石層 「薩摩」と称される火砕流噴出物である。一般に約11,000年前に比定される。

VII層 暗茶褐色粘質土層 「チョコ層」といわれる層にあたる。

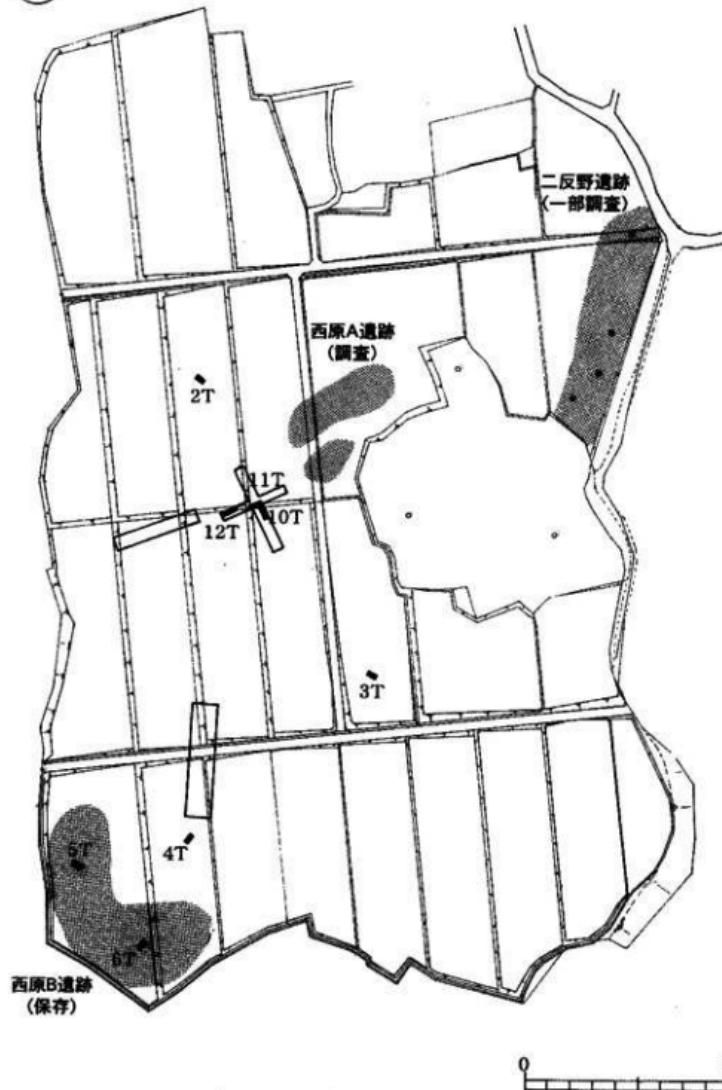
VIII層 茶灰褐色粘質土層 2次シラスの堆積層と判断される。



第3図 調査地区、谷部、削平見取り図



第4図 西原A遺跡、西原B遺跡、二反野遺跡地形図及びトレンチ配置図



第5図 西原A遺跡、西原B遺跡、二反野遺跡工事後の地形図

7トレンチからは、表土であるⅠ層は重機で除去した。表土の除去は、別に3ヶ所において広範囲におこない、土層の残存状況を観察した。すべてでⅡ層とⅢa層が観察できず、削平されたものと判断した。Ⅲa層までの削平部分が再堆積してⅠ層をなしている。西原A遺跡では、7~9トレンチの調査の結果、既に畑地の造成により一部で包含層が削られていた。西原A遺跡の下の畑地に縄文時代晚期の土器片が採集されたため、1×5mのトレンチを3本設定したが遺物は出土しなかった。西原A遺跡は縄文時代晚期の単純遺跡で、西原B遺跡はⅢa層までしか確認しなかったが土層の残存状況がよい。二反野遺跡については、畑地に縄文時代晚期を中心とする時期の土器片が多く散布し、立地からもより古い時期の包含層が存在することが予想された。事情によりトレンチは設定できなかつたが、4ヶ所にボーリングを実施したところ、Ⅲa層が厚く残っており、縄文時代前期の遺物が出土したため、前期と晚期の2時期以上の時期の複合遺跡と判断した。二反野遺跡、西原A遺跡、西原B遺跡の範囲は第5図にあるとおりである。

・確認調査によって確認された3遺跡の取り扱いについて、現地で大隅耕地事務所・町耕地課・町教育委員会・県文化課が協議した結果、西原B遺跡と二反野遺跡の大部分については盛土工法で残し、西原A遺跡と二反野遺跡にかかる道路取り付け部分については、緊急発掘調査を実施し記録保存することになった。

西原A遺跡では、約1,000m²を対象に、トレンチ調査で包含層の残存状況を把握した部分についての表土を重機で除去した後、Ⅰ層下面からⅢa層へ遺物・遺構の検出作業を行った。グリッドは地形に合わせて任意に10mグリッドを設定し、北からA・B・C・D・E区とし、東から1~6区とした。遺物はA・B・2・3区を中心に出土し、A-5、B-5区は数点の出土であった。Ⅲc層上面までを最終検出面として調査を行った。A-5、B-5区については、下層確認のためⅢc層を重機で除去しⅣ層上面まで掘り下げた。ここからは縄文時代早期に相当する遺物・遺構とともに検出されなかった。遺物は縄文時代晚期の黒川式の時期のもので、遺構は不明土坑を1基検出した。

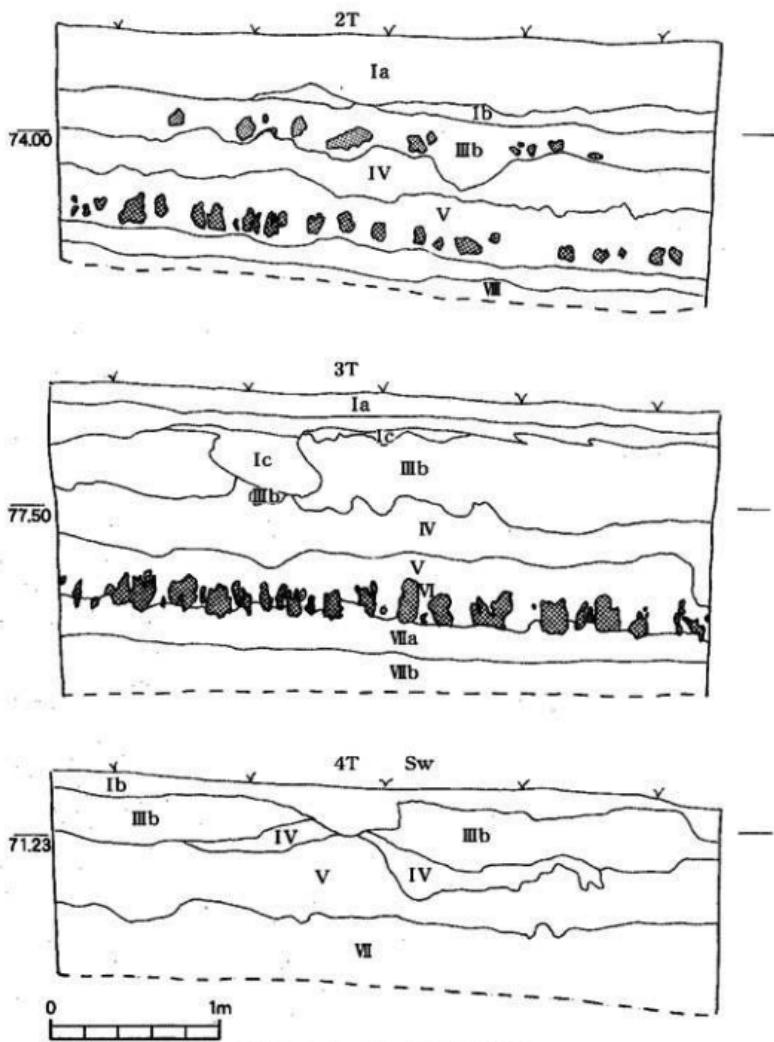
二反野遺跡では道路部分の表土を重機で除去し掘り下げた。面積は約180m²である。Ⅲa層から縄文時代前期の曾畠式とⅣ層から縄文時代早期の集石遺構1基と塞ノ神式が出土した。

第2節 西原A遺跡、西原B遺跡の調査（第6図~第31図）

1、各トレンチの状況

1トレンチの調査

西原遺跡は周知の遺跡であり、その遺跡範囲確認の意味もあって、同一尾根上の底位の畑に、1トレンチを2×4mで設定した。1トレンチでは表土が20cmほどあり、その下層がⅢb層となっており、Ⅲa層が僅かに残っているところから条痕のある土器片が出土した。土器片は縄文時代晚期と判断できる土器片が2点と、貝殻条痕をもつ土器片が2点であった。Ⅶ層まで掘り下げたが、下層からは遺物・遺構は検出しなかった。この時点では縄文時代前期と晚期の2時期の可能性があった。畑全体に表土が薄く、トレンチ周辺の土がアカホヤ層の土を混入して



第6図 2・3・4トレンチ土層断面図

いたため、かなりの削平を受けていることが推定された。そのため周辺にさらに確認トレンチの必要があり、作業の進行状況をみながら、6トレンチまでの状況が把握できた段階で、周辺に長いトレンチを設定した。

2 トレンチの調査

1 トレンチの北で、削平の比較的行われていないところを選んで2 トレンチ ($2 \times 4\text{ m}$) を設定した。第6図に土層図があるが、包含層であるべきⅢ a層は削平されている。削平を受けながら、周辺からは遺物は採集できないので、遺跡範囲からは外れるであろう。

3 トレンチの調査

1 トレンチと浅い谷を挟んで3 トレンチを $2 \times 4\text{ m}$ で設定した。ここも2 トレンチと同じくⅢ a層がなく、Ⅲ c層はⅢ b層の下部にブロック状に点在している。

4 トレンチの調査

3 トレンチの西に畑地を一枚隔てて、4 トレンチ ($2 \times 4\text{ m}$) を設定した。3 トレンチと4 トレンチの間の畑は、以前桑畠であったものを重機によって抜根し、かつ造成しているので、4 トレンチ側にⅢ b層・Ⅲ c層が表土している。道を挟んで南側の畑も同様である。Ⅱ層・Ⅲ a層が削平されている。4 トレンチではⅢ c層は、軽石がⅢ b層に散見される程度で層としては把握できない。

5 トレンチの調査

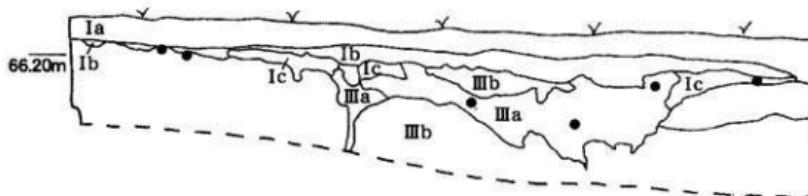
4 トレンチからさらに西側の、一段下がった畑に5 トレンチ ($2 \times 4\text{ m}$) を設定した。表土が薄く、一部で擾乱もある。縄文時代晚期の土器片が出土した(第7図)。Ⅲ a層は一部が残っており、遺物はⅢ a層の下面とⅢ b層の上面から出土した。Ⅲ b層まで掘り下げて、以下は掘り下げなかった。

6 トレンチの調査

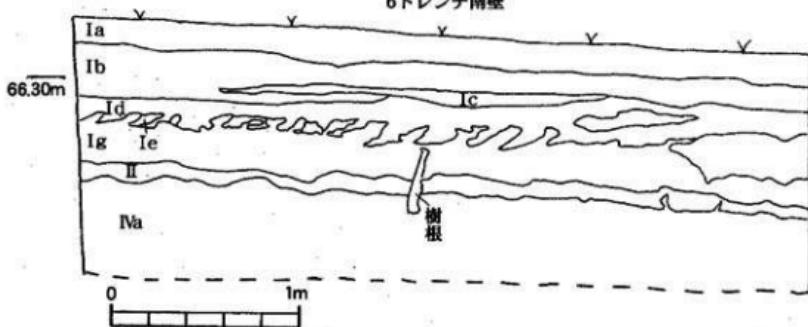
5 トレンチの遺物が出土したため、5 トレンチの南側に6 トレンチ ($2 \times 4\text{ m}$) を設定した。南側は急崖となって落ちている。表土が厚く、旧耕作面も観察される。東側の高いところから重機で押された土が、上に乗っている。Ⅱ層が残り削平をまぬがれている。トレンチの周辺にも土器片が散布しており、4 トレンチの周辺を含めて包含層のあった可能性がある。縄文時代後期の御領式の土器片を探集した。後期から晩期にかけての遺跡である可能性がある。

以上のトレンチの結果を基礎にして、1 トレンチの周囲に7 トレンチ ($1.2 \times 3.1\text{ m}$)、8 トレンチ ($1.2 \times 3.1\text{ m}$)、9 トレンチ ($1.2 \times 2.0\text{ m}$) を設定し、西原A遺跡のⅢ a層の残存状況と範囲を把握した。8 トレンチでは一部で縄文時代早期の確認も行った。7・8・9 トレンチでは縄文時代晚期の土器のみが出土したため、単純遺跡の可能性が高くなった。また西原A遺跡の西の畑に4 m幅で十字に直行して、それぞれ長さ約30 mと40 mの表土剥ぎを行い、さらにその下段に $5 \times 40\text{ m}$ の、4 トレンチの北東側に約 $10 \times 50\text{ m}$ の、計3ヶ所で表土を重機で除去した。Ⅲ a層の確認が主目的であったが、荒れ地と桑畠のため伐採等に手間取らない為であった。いずれも表土のしたはⅢ b層であった。西原A遺跡の西からは、その際縄文時代晚期の土器片が採集されたので、10・11・12 トレンチをそれぞれ $1 \times 5\text{ m}$ で設定した。Ⅲ a層は残っていなかった。また、それぞれⅥ層まで掘り下げたが、縄文時代早期に相当する遺構・遺物は確認できなかった。

5トレンチ東壁



6トレンチ南壁



第7図 5トレンチ遺物出土状況及び土層断面図、6トレンチ土層断面図

西原B遺跡については、5トレンチから6トレンチに向かって、重機で表土を剥いで(1.2×1.5m) IIIa層をおって行った。遺物包含層が良好に保存されていると判断した。

トレンチ調査の面積は161.4m²で、表土を除去しIIIa層の確認をした面積が約960m²となる。

2. 西原A遺跡緊急発掘調査

3ヶ所の遺跡のうち、二反野遺跡と西原B遺跡については設計変更により、遺跡が保存されることとなった。西原A遺跡と二反野遺跡の道路部分については、緊急発掘調査を行った。

西原A遺跡のグリッドは第8図のとおりである。7トレンチ・8トレンチ・9トレンチの結果から、Ⅲa層は西側（6区）では既に削平され、東側（A-2・3区）が厚くなる。東側（A-1区）は一部擾乱されており、Ⅲ層はグリッド外でまた薄くなり山にあたる。南側と北側の段落ちしているところも削平されている。10・11・12トレンチからも遺物の出土はなく、つまり遺跡範囲は1枚の畑地に限定されることとなる。縄文時代早期の包含層の確認については、1トレンチ周辺のグリッドのA-5区・B-5区を行った。調査は、包含層が比較的残っているA-2・3区から行い、A・B区の調査をほぼ終えてからD区の調査を行った。縄文時代早期の確認はA・B区の調査でも先行して、遺物がほとんど出土しなかったA・B-5区でⅢa層をほりあげた段階で、重機でⅢb層・Ⅲc層を除去して行った。VI層まで掘り下げて、遺物・遺構とも検出されなかった。全体の遺構の最終検出面はⅢc層として掘り下げた。

遺物は包含層の厚いA-2・3区を中心に出土し、第10図の石皿・磨石の出土状況に見られるように原位置を保っていると判断されるものもあった。縄文時代晩期の黒川式の土器とその時期の石器が出土し、土抗1基を検出した。軟玉製と思われる勾玉と土製勾玉がそれぞれ1個出土した。前者の石材については今後詳細に検討したい。

3. 遺構（第9図・第10図）

1号土坑（第9図）

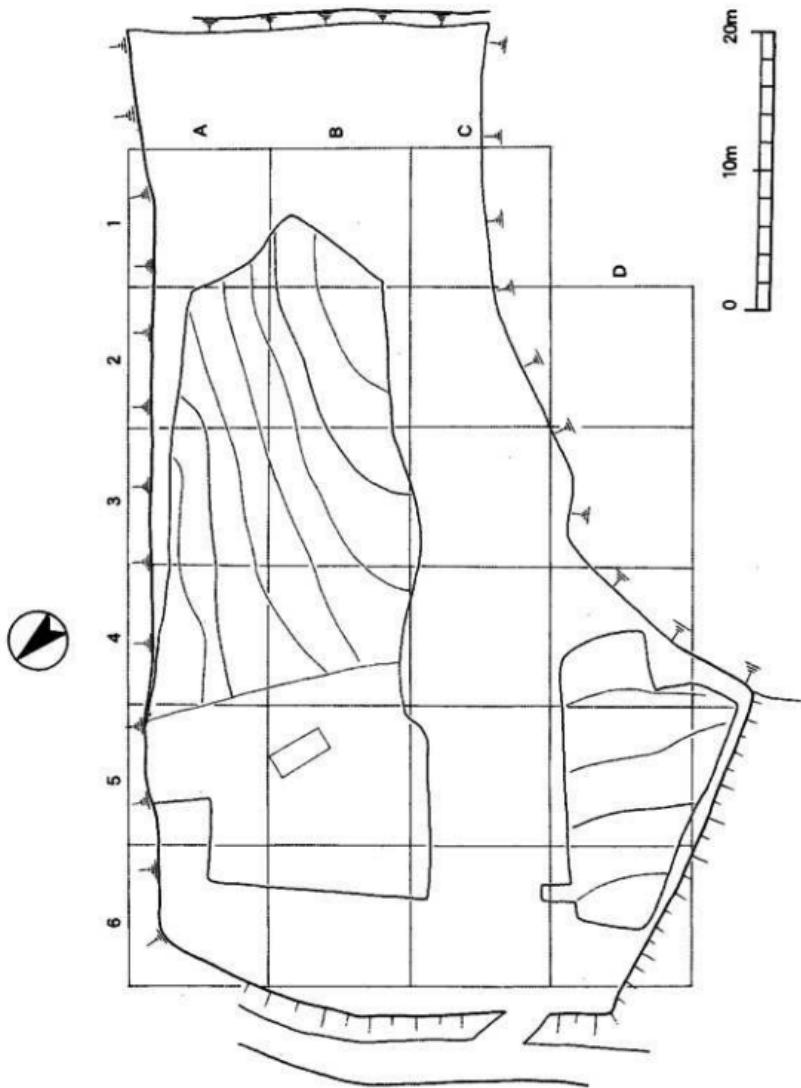
B-4区でⅢb層に掘り込まれ、Ⅲa層がさらに黒濁した埋土をもつ土抗を検出した。埋土に黒川式の土器片を多く含むが、床面には遺物が検出されなかった。隅丸方形のプランか長円形のプランか、北側のプランが明確でなく把握できない。埋土は一様で、炭化物が若干多かつたが、焼土は検出されなかった。土抗の南側にPitが検出された。埋土は同じで土抗に伴うものである。土抗の性格については不明である。

第10図は石皿と磨石と土器片の出土状況である。上面を取り上げた後にさらに磨石が出土した。東側に土質の違うラインが一部観察できたが、全体につながらなかった。

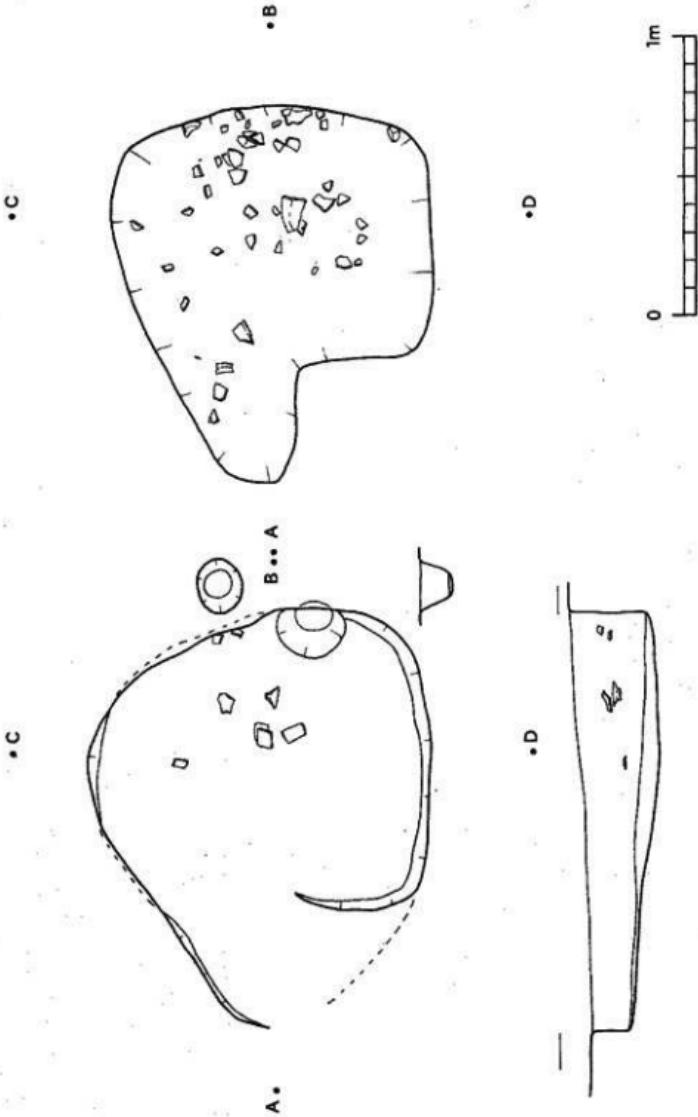
4. 遺物（第13図～第31図）

遺物は第11図・第12図にあるように出土した。

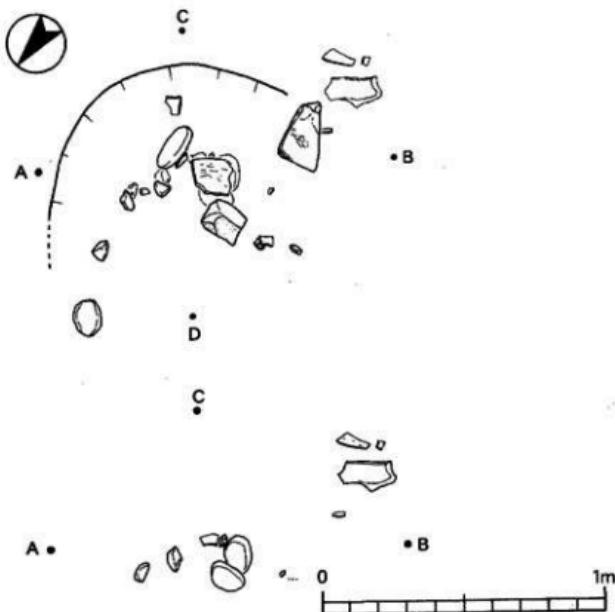
土器については器種ごとにまとめた。黒川式においては、従来精製土器と粗製土器に2分され、浅鉢形土器は精製浅鉢形土器としてのみ扱うことも多かった。粗製土器で、浅鉢形土器に織維圧痕の残る土器の出土例が増して、粗製土器に深鉢形と深鉢形の土器があることが再認識されたということができる。なお粗製土器の深鉢形土器については、研究史と縄文時代の土器型式概念から、黒川式についてもこれを踏襲することが多い。近年は特に突帯文土器の研究から、弥生時代の土器様式概念が縄文時代晩期までさかのほって使用され、「變形土器」の器種名が使用されることもある。



第8図 西原A遺跡 グリッド配置図及びIIIc層上面コンタ図



第9図 西原A遺跡 1号土坑探出状況及び遺構図



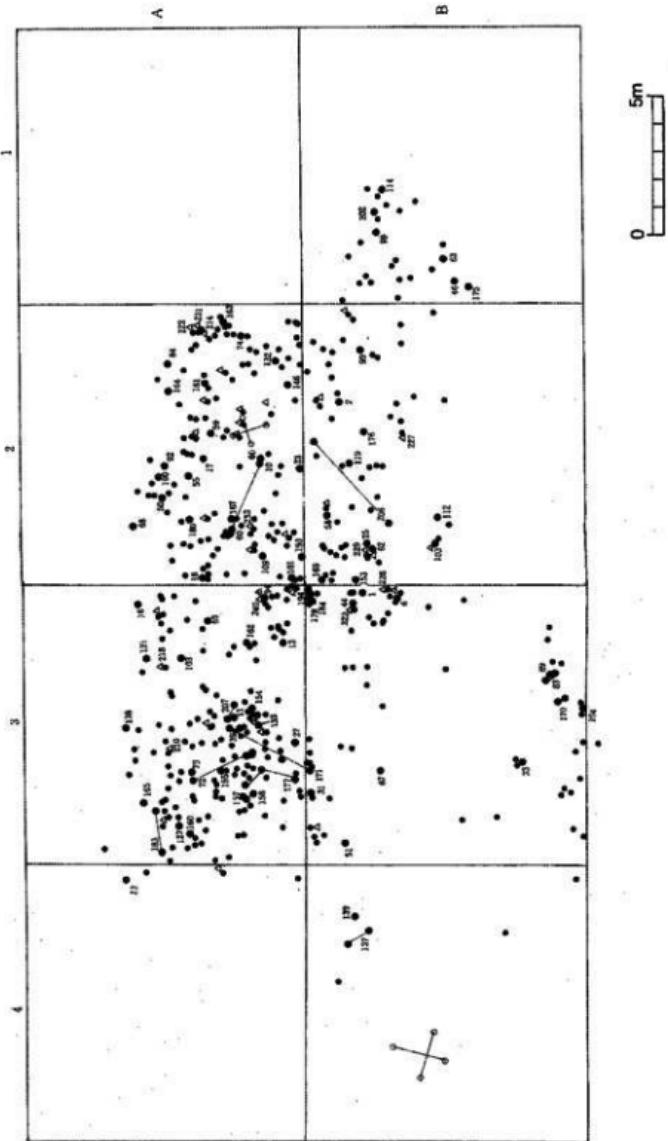
第10図 西康A遺跡 磨石・石皿出土状況図

本遺跡出土の土器については、1~42・44~58を精製浅鉢形土器、60~73は粗製浅鉢形土器であるが突帯をもつことから1分類し、43・80~102を粗製浅鉢形土器、134~199を粗製深鉢形土器、200~206を粗製土器の底部として扱った。103~133は粗製浅鉢形土器の胴部の破片である。粗製浅鉢形土器の胴部については、条痕を残しながら内外面に粗い研磨を行っており、特に内面に顕著であって、深鉢形土器の胴部との区別は容易である。

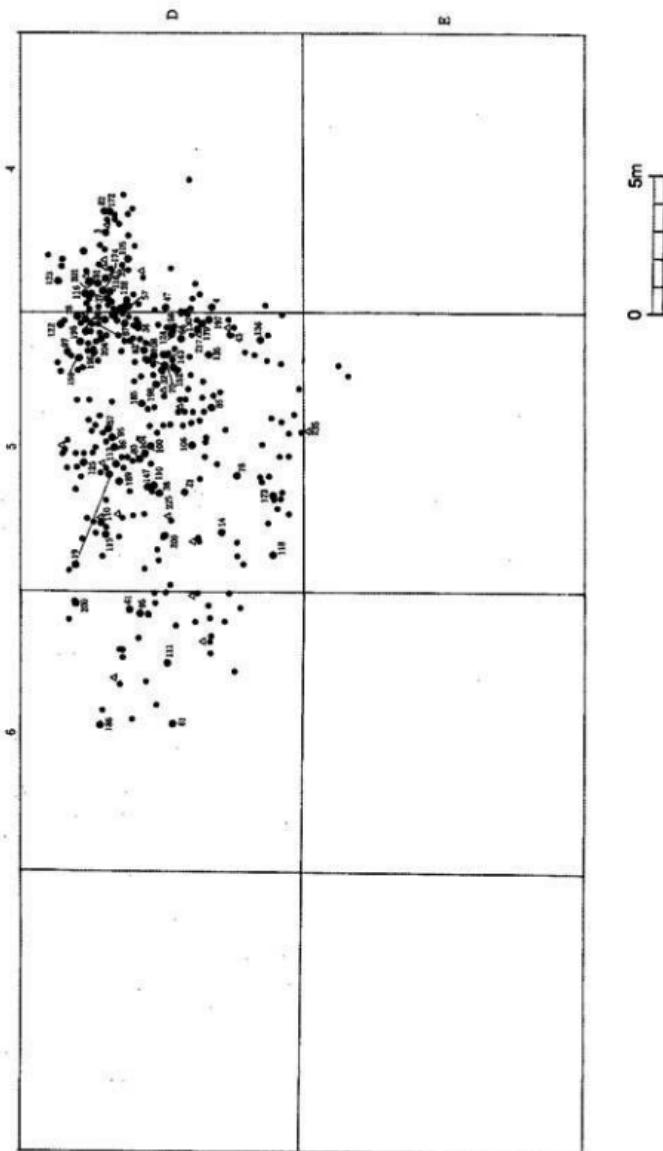
1~39・42は精製浅鉢形土器の口縁部である。いずれも内外面に沈線を施す。外反するものと(1~30)、直立するものがある(31~38)。5・13・17は、口縁部に突起がつけられているが、5・13はリボン状で、17は三角形の突起である。補修孔か、穿孔されたものも目立つ。40・41・44~59は精製浅鉢形土器の胴部片である。肩部で棱をつくるもの(40・41・44~50)と、円形に丸くなるもの(51~58)がある。型式学的には、棱をもつものが、丸い胴部のものに先行するであろう。いずれも薄手で、内外面を丁寧に研磨している。

60~73は口縁部に突帯をもつ浅鉢形土器で、外面は条痕で、内面は条痕や工具ナデされたあと研磨されている。ほとんどが突帯は口唇部からくらか下に下がって貼り付けられている。72は突帯が貼り付けられた後で、沈線を入れている。

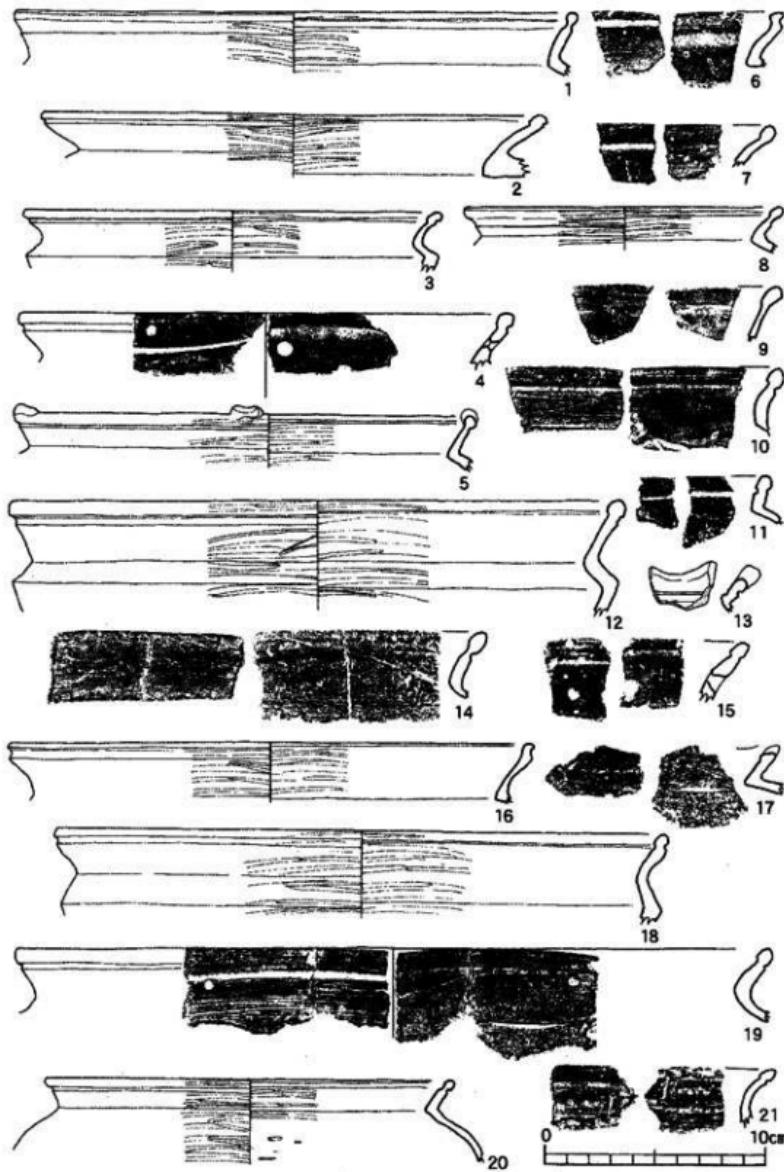
77は沈線を2条施し、内外面が平滑である。76・79は細い沈線が、不規則に施されているよ



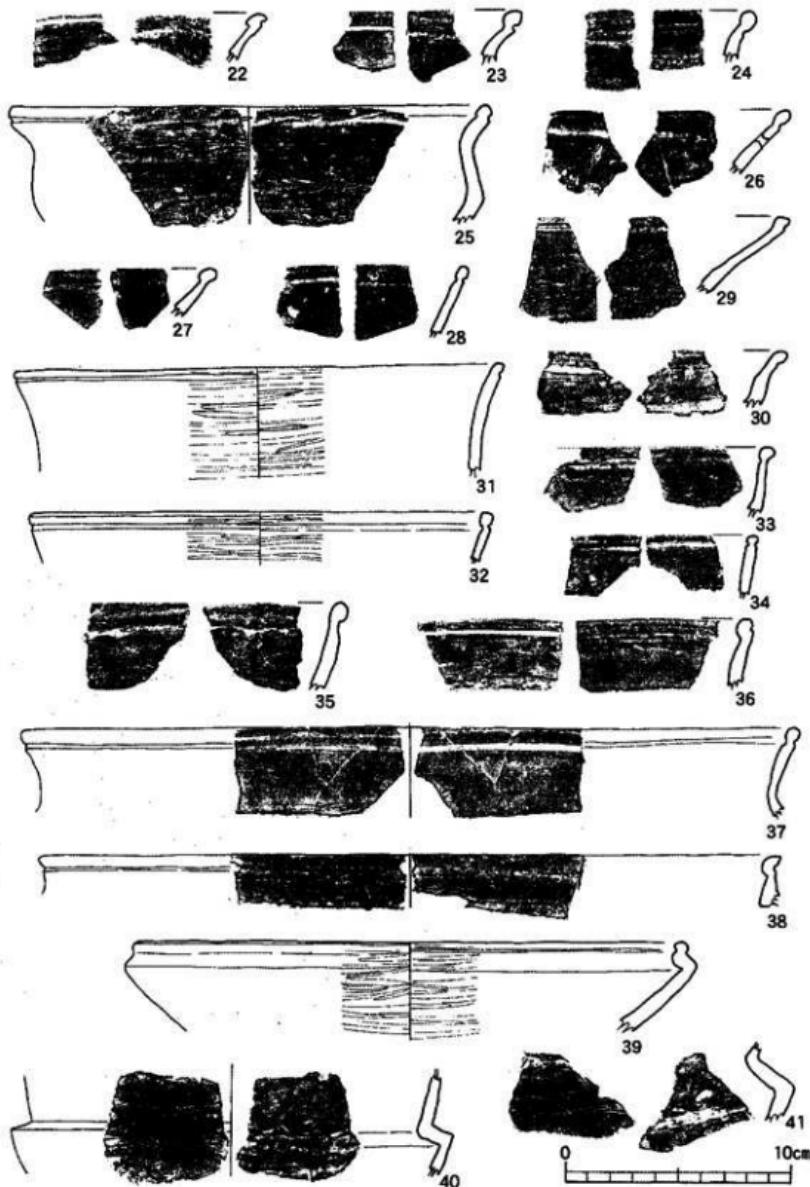
第11図 西原A遺跡A・B区 遺物出土状況



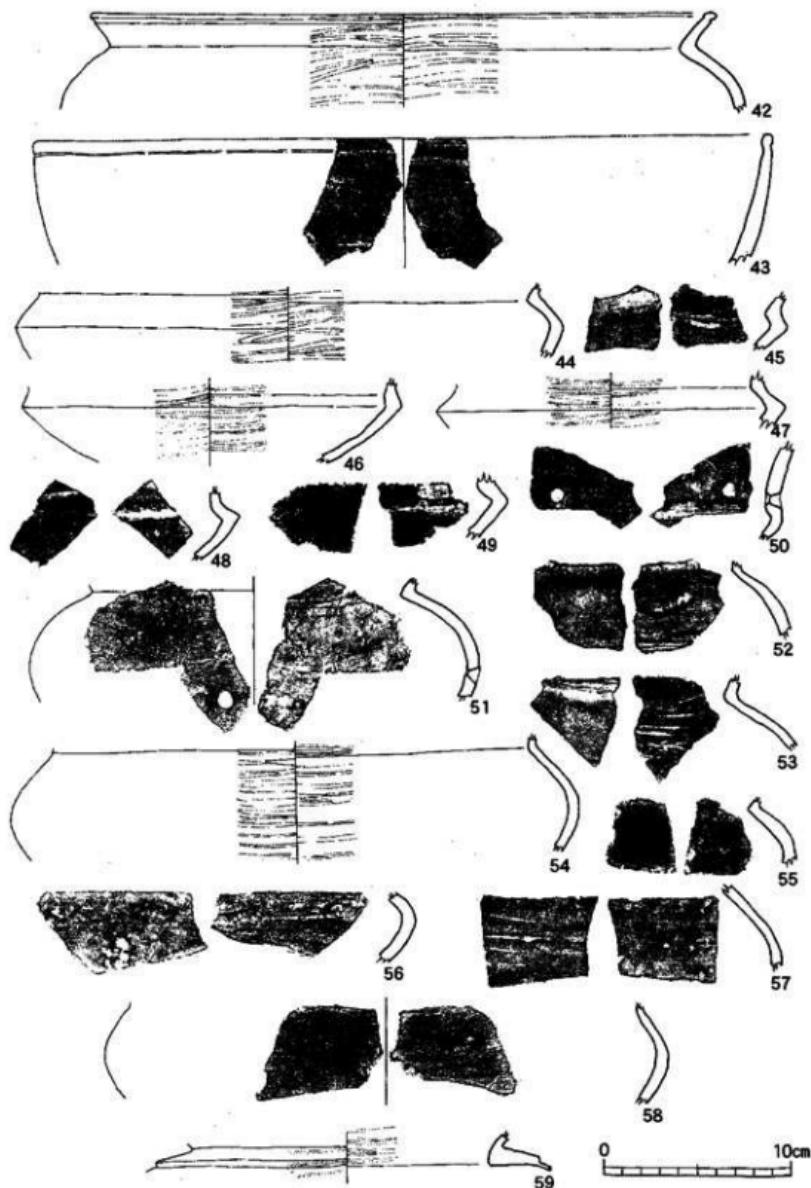
第12図 西原A跡D区 遺物出土状況



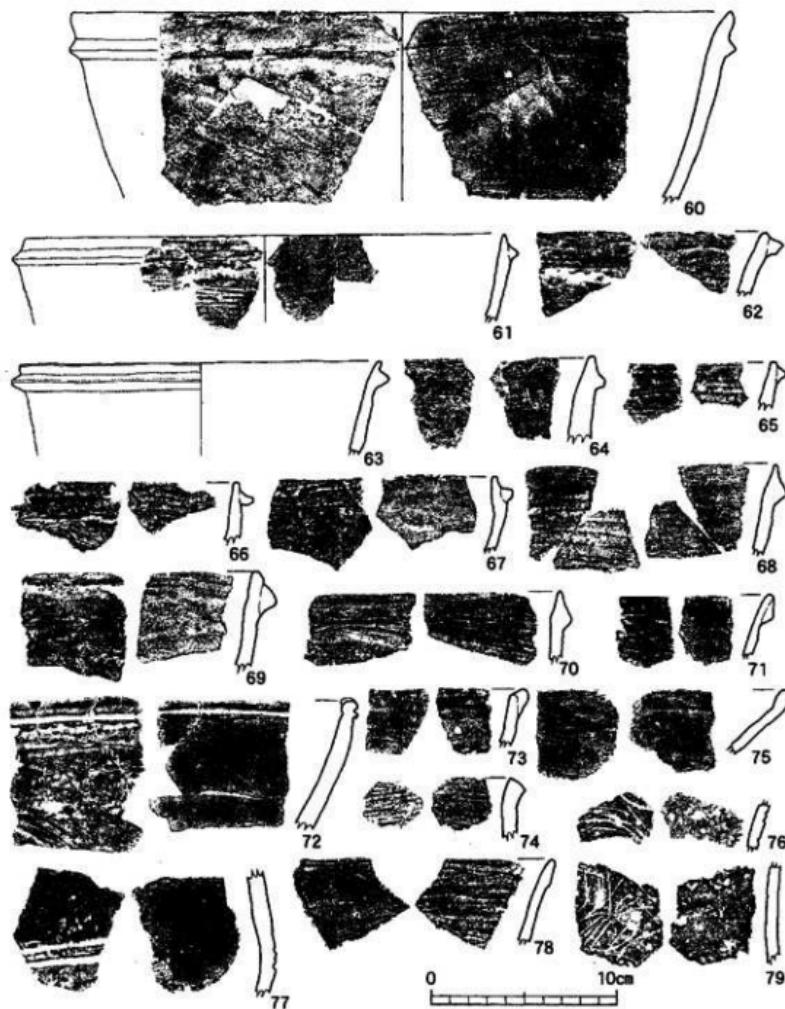
第13図 出土土器 (1)



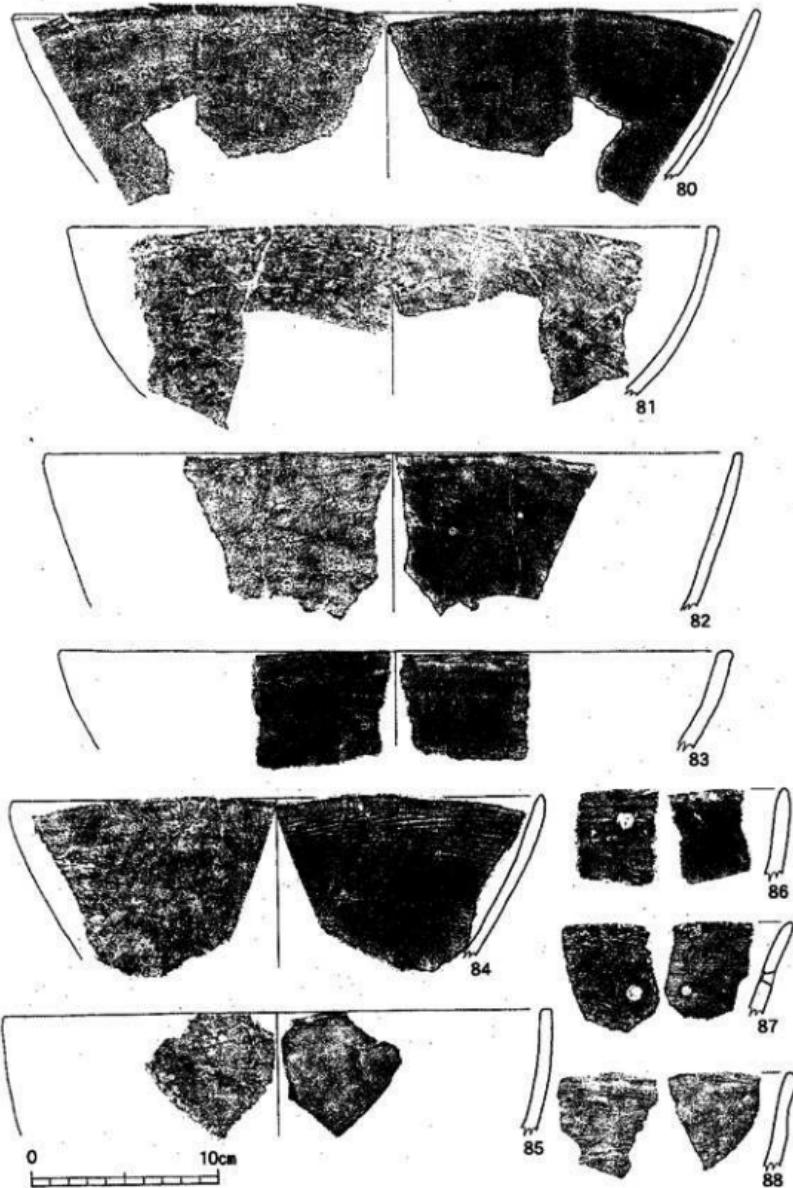
第14図 出土土器 (2)



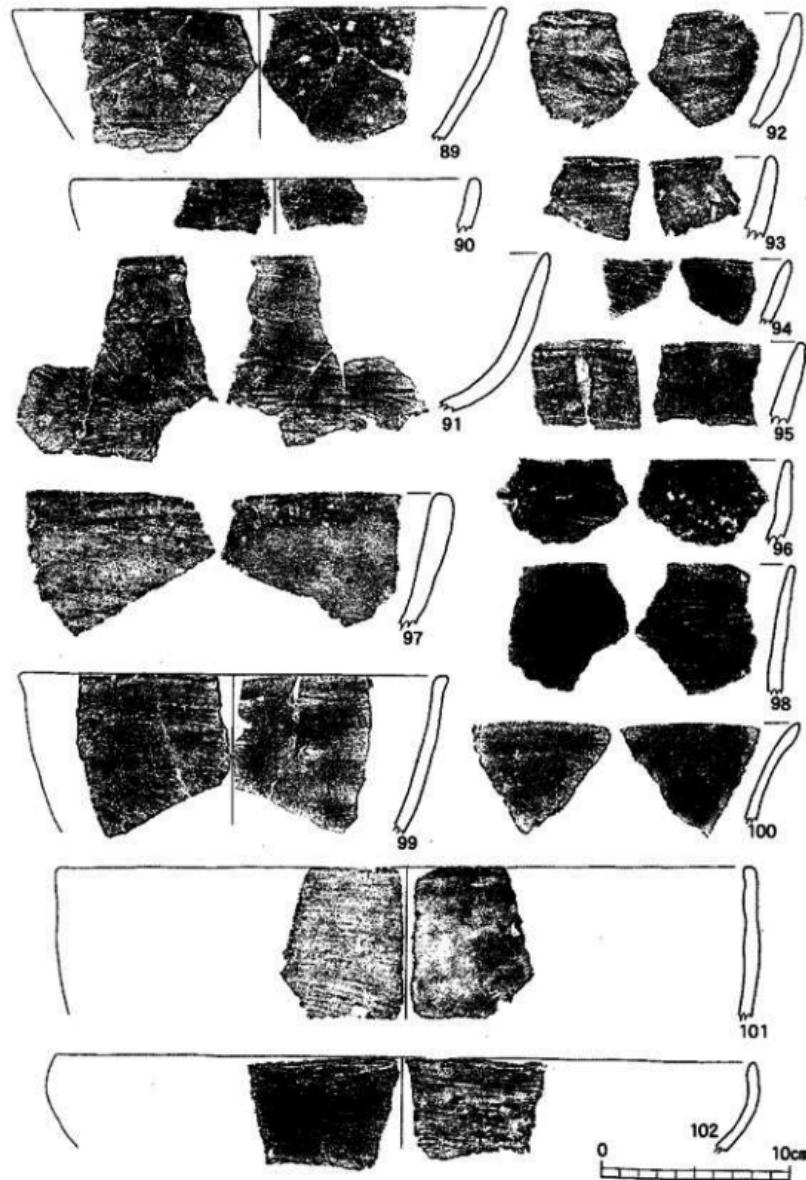
第15図 出土土器 (3)



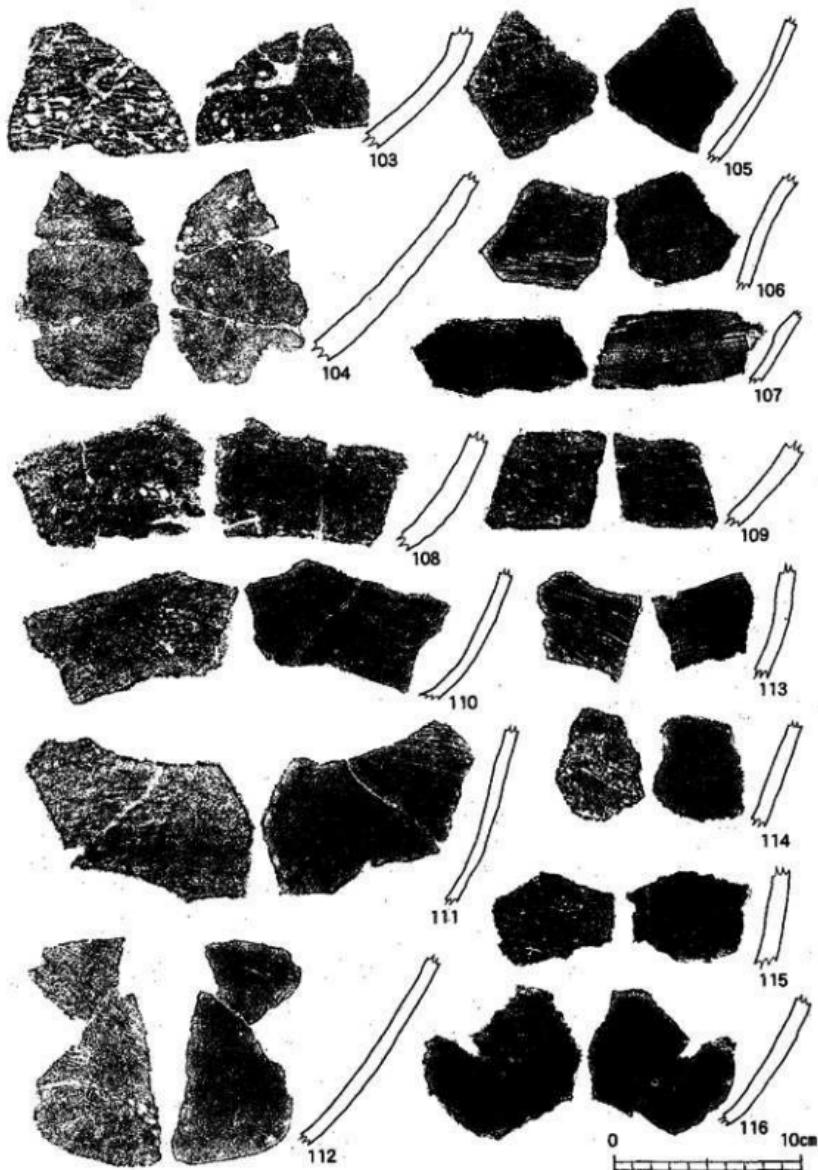
第16図 出土土器 (4)



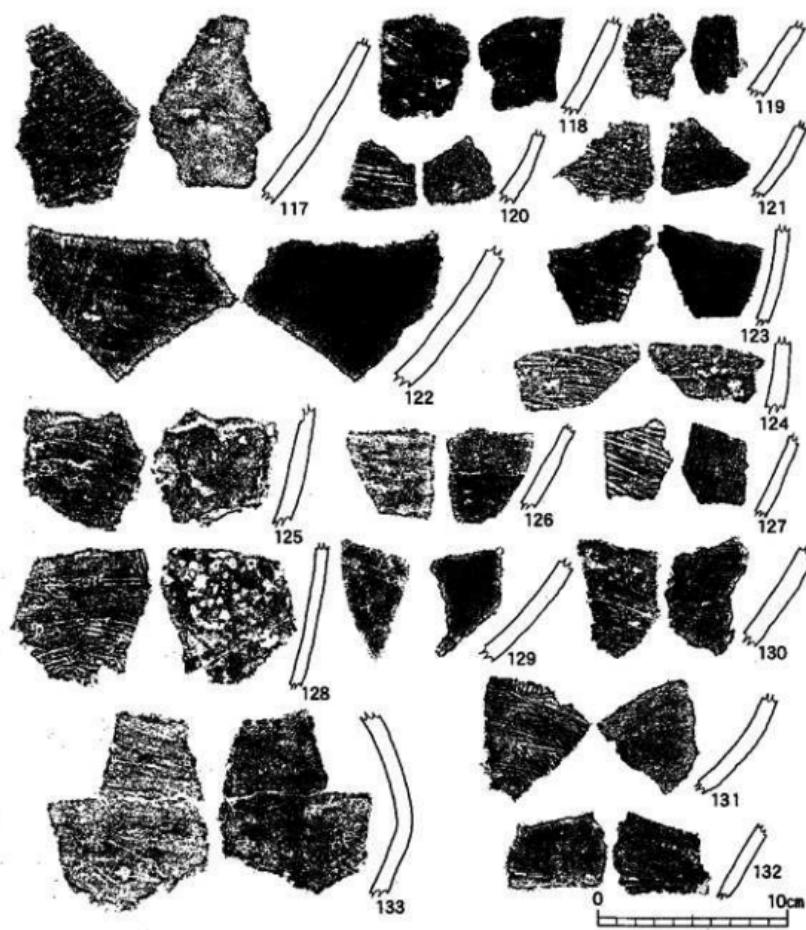
第17図 出土土器 (5)



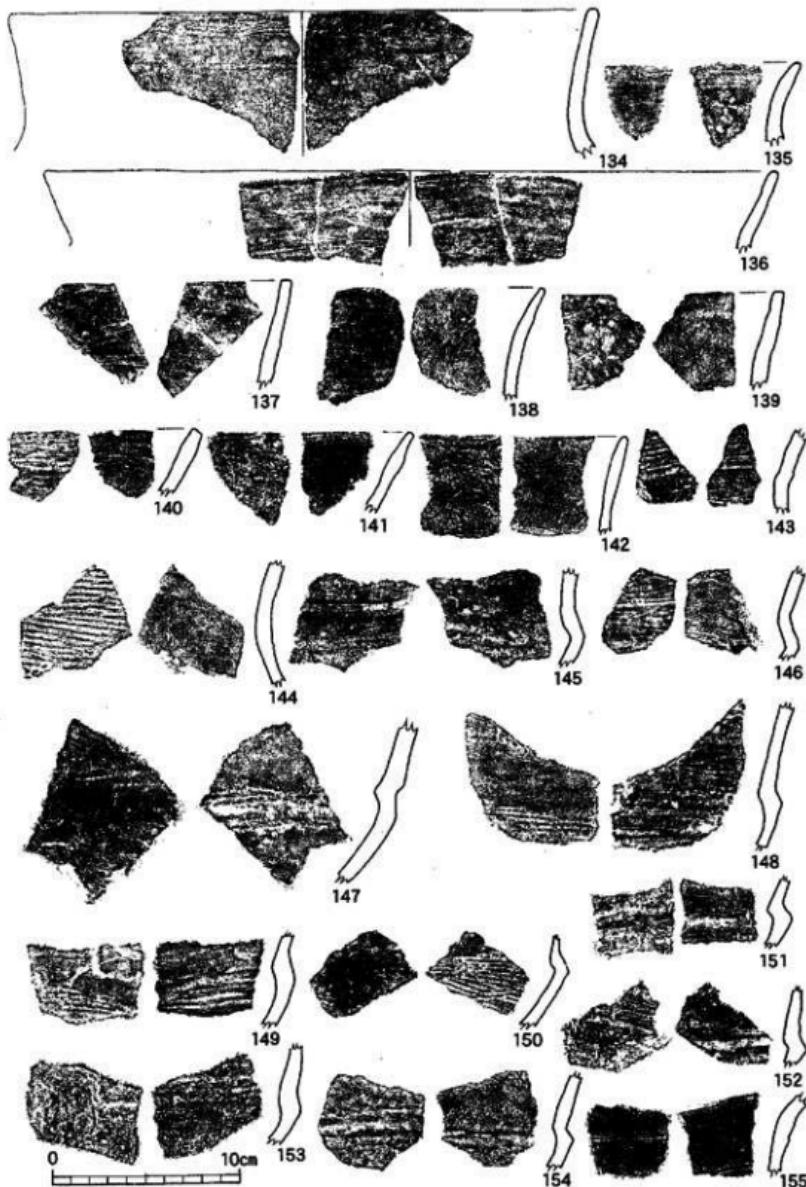
第18図 出土土器 (6)



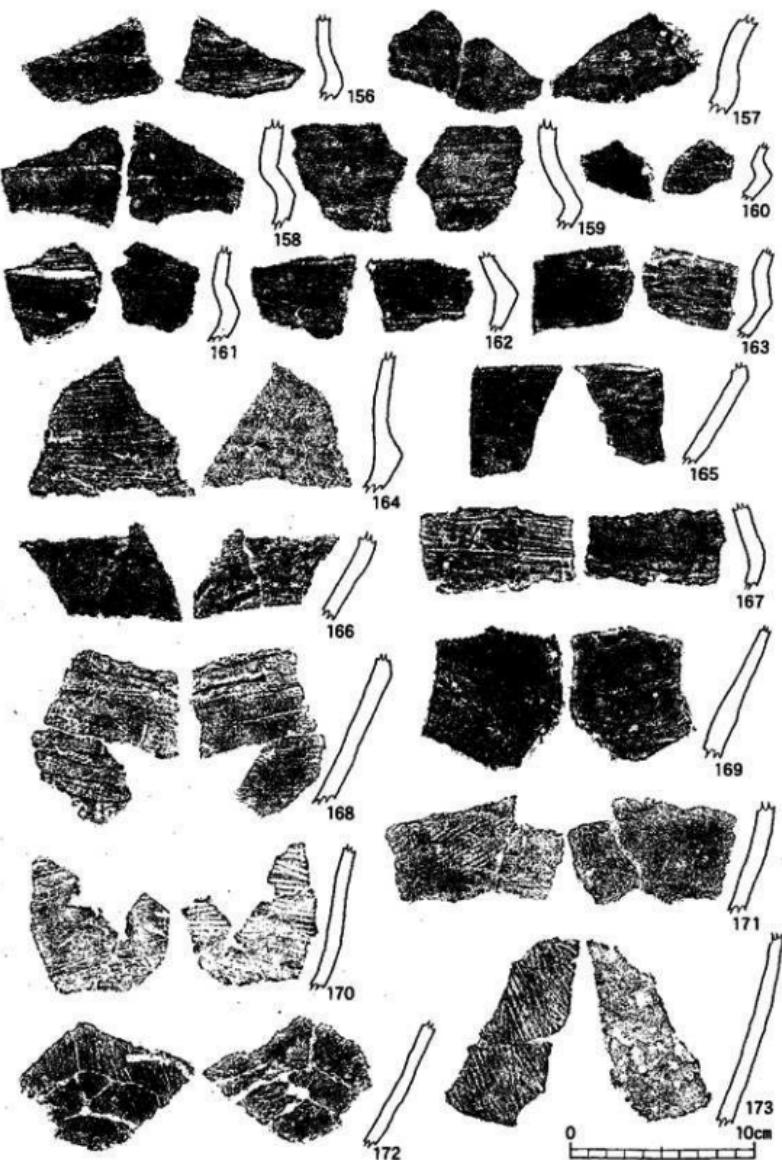
第19図 出土土器 (7)



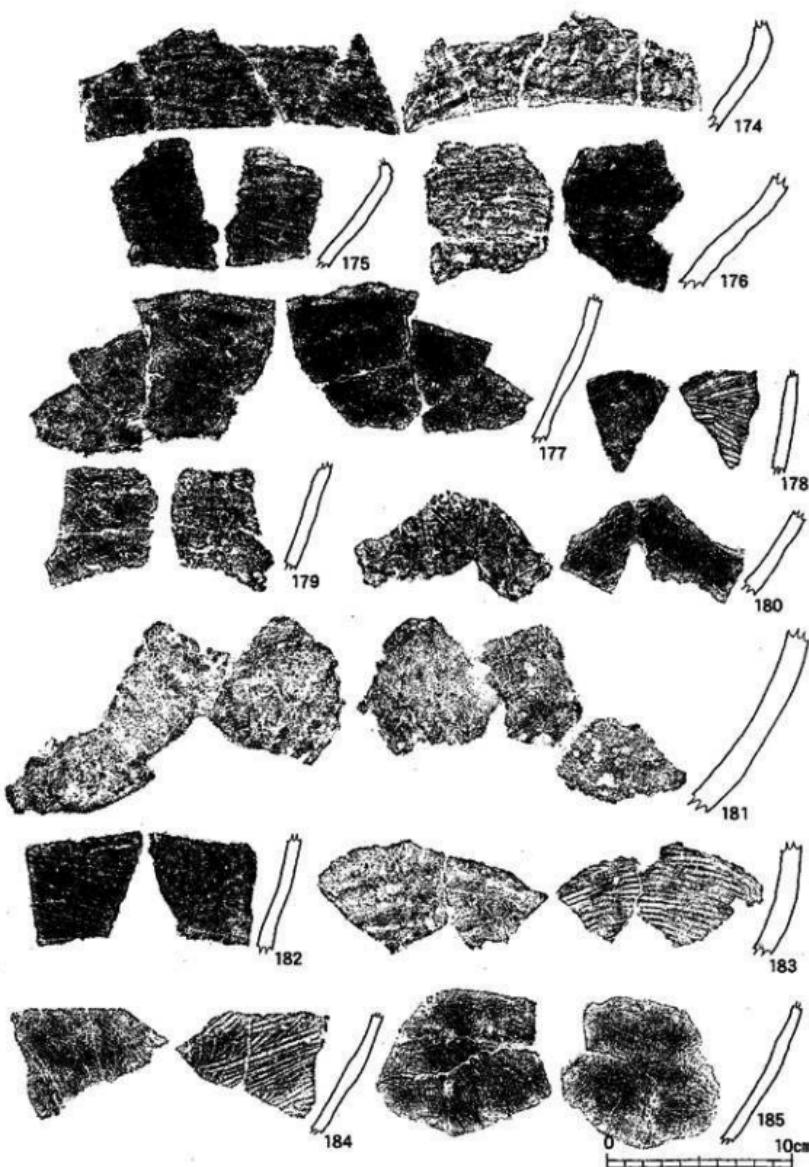
第20図 出土土器 (8)



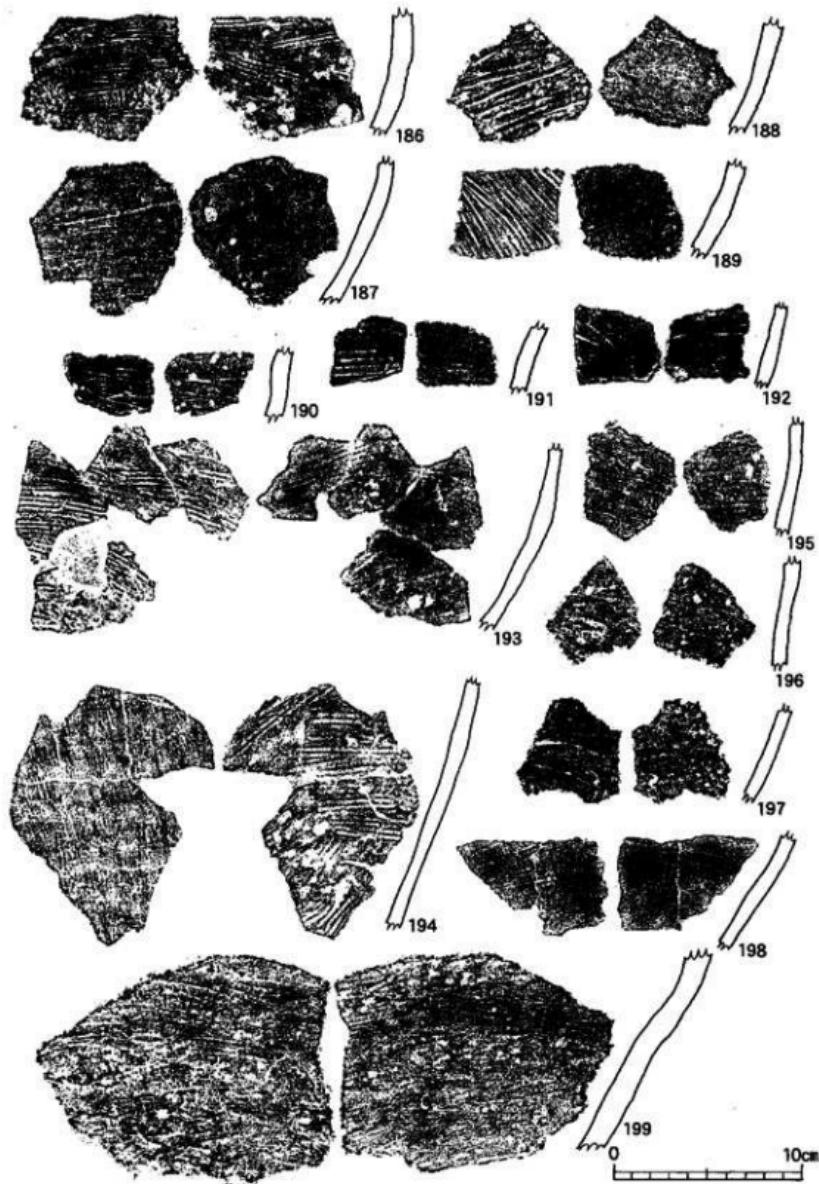
第21図 出土土器 (9)



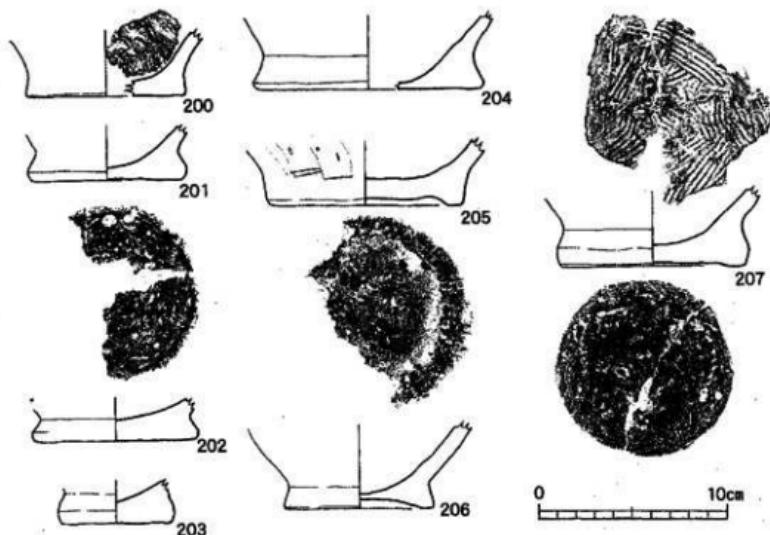
第22図 出土土器 (10)



第23図 出土土器 (11)



第24図 出土土器 (12)



第25図 出土土器 (13)

うにみえる。胎土・色調が黒川式とは異なっており、時期が異なる可能性がある。

43・80～132は粗製の浅鉢形土器である。精製に比較して胎土に砂礫が多く含み、厚手で、色調は黒褐色～赤褐色を呈する。炭化物が付着しているものが多く、煮沸用に使用されたことを伺わせる。内面を研磨によって最終的に調整している。器形は口縁部が直線的に立ち上がるるもの（80・82・98・101）と、丸く立ち上がるるもの（81・84・85・89・91）とがある。

134～199が粗製深鉢形土器である。外面が条痕、内面が工具によるナデで調整されているものが多い。肩部で一度屈曲し稜をつくって、さらに外反して口縁部をつくる。肩部にリボン状の貼り付けを持つものもある。200～206は底部である。黒川式に特徴的な平たい底に外側への張り出しがある。205が、上げ底で高台状をしている。

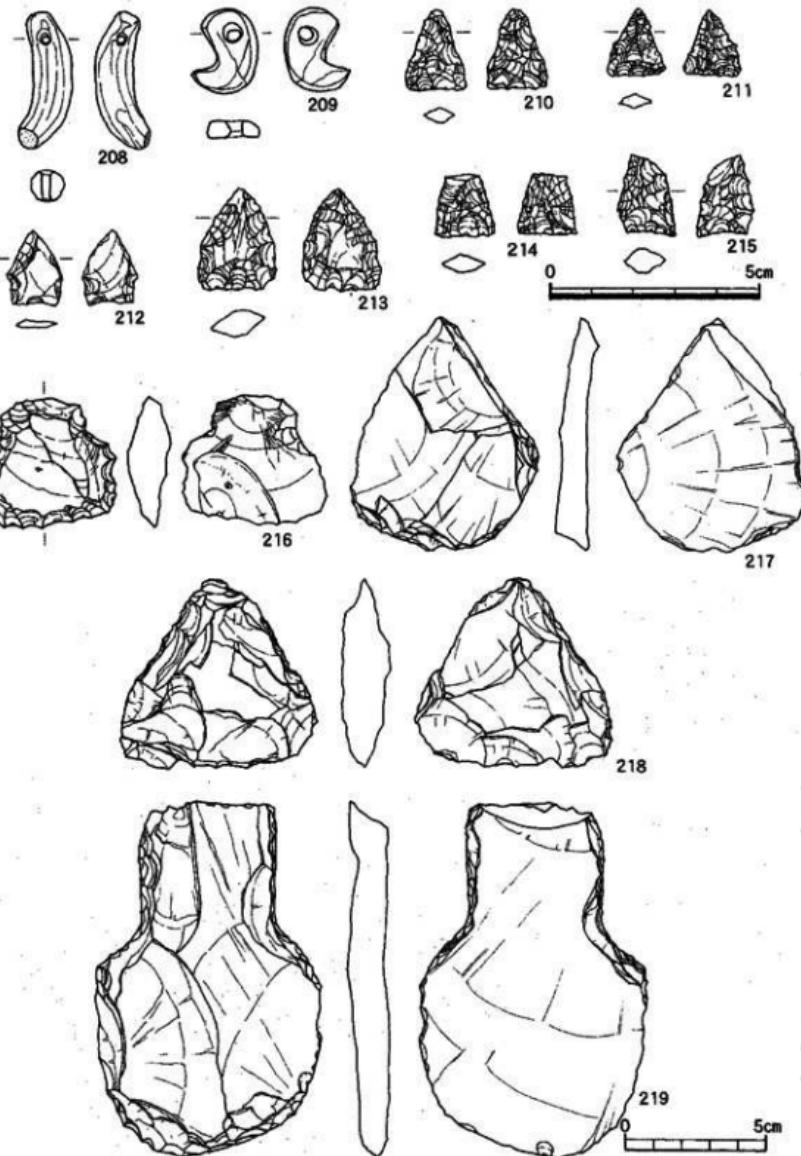
個々の土器については、観察表に詳しい。

石 器（第26図～第31図）

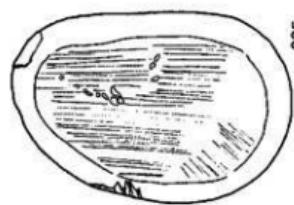
石器は石鎚・石匙・打製土掘り具・磨石・敲石・凹石・石錘・石皿・台石などが出土した。224・232・233・234・237などが、第10図の「磨石・石皿出土状況」にある石器である。土器は51・199などが共伴している。210～215は石鎚である。すべて抉りがない平基のものである。211が黒曜石、212が頁岩でその他はチャートも灰色のもの（215）と灰白色のもの（210）と濃緑のもの（213）がある。それぞれ石材がバラエティーに富んでいる。216は石匙で、主要剥離面をそのまま残している。主要剥離面側の剥離は、新しいものである。217～219は縄文時代晩期の遺跡によく出土する打製土掘り具と石材・形状が共通している。220は用途不明の石器で、長側縁が剥離されている。221～228は敲石と磨石であるが、両方の機能を兼用しているものが多い。敲打痕は見た目で円形のものと、細長く紡錘形のものが観察される。229は両平坦面が平滑である。230は有溝の石錘である。232と235は溝状の擦痕がある。233～236は石皿、237～240は台石とした。石皿・台石は砂岩を石材としている。石皿・台石ともにほとんどが破損品であった。本遺跡においては、石斧などの木材加工に使用されると考えられる用具の出土はなく、図化しなかった破損品は磨石・敲石・石皿である。代表的な狩猟具である石鎚はすべてを図示したので、これも多いほうではない。規模がそれほど大きい遺跡ではなく、資料数も多くはないが、石器組成からは縄文時代晩期の遺跡に一般化される特徴を有していると考えられる。個々の遺物については、計測表に記した。

その他の遺物（巻頭カラー）

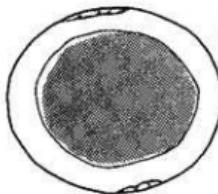
土製勾玉（208）と軟玉？製の勾玉（209）が出土した。本遺跡は縄文時代晩期の黒川式期の単純遺跡であり、包含層内から出土したものであるので、黒川式に伴うものである。208は先端を一部欠いている。穿孔は両側からなされ、上下方向に若干ずれている。土製勾玉とは出土地点は異なるが、同時期のものである。資料としても数例が少ないうえに土製勾玉と出土していることから貴重な資料といえる。



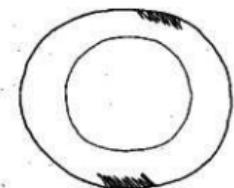
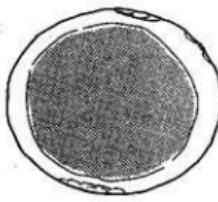
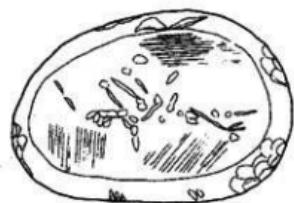
第26図 出土石器 (1)



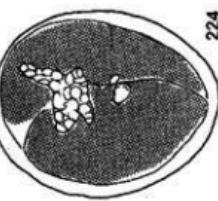
225



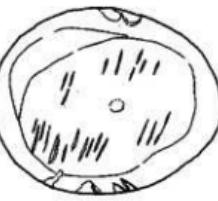
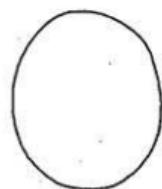
226



231



0 10cm



237



238



239



240



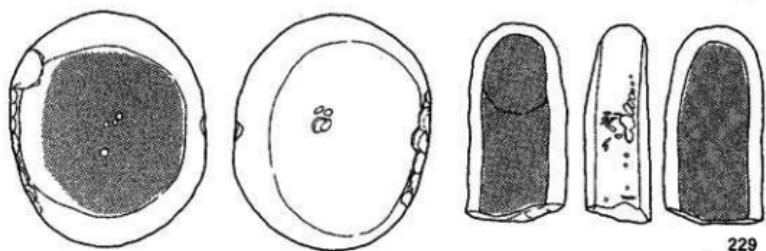
241



242



第27圖 出土石器 (2)

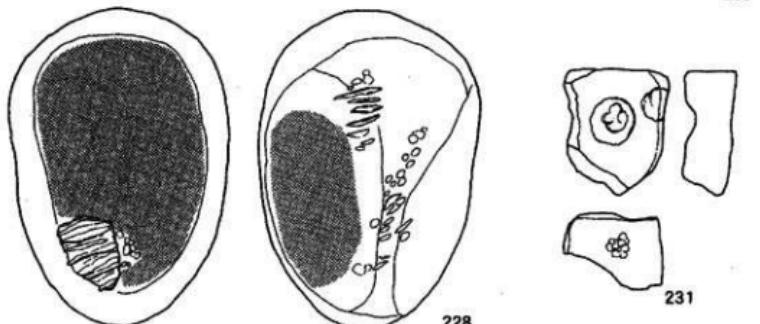


227

229

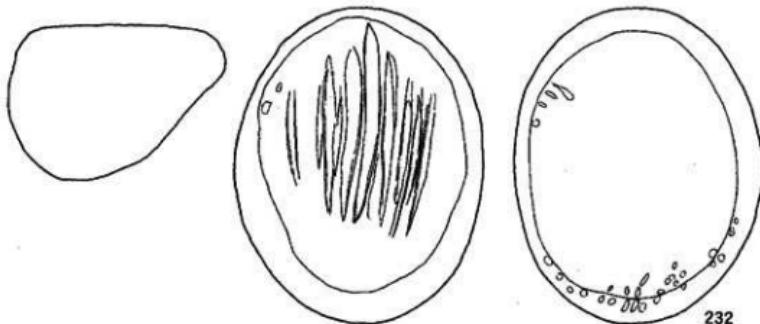


230

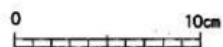


228

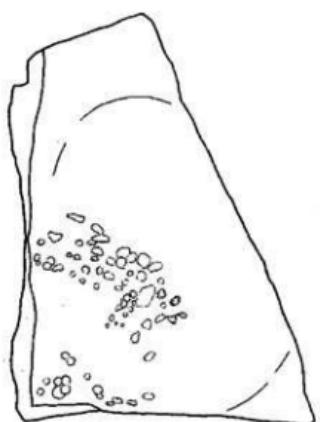
231



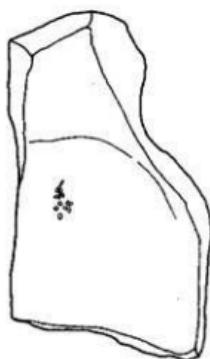
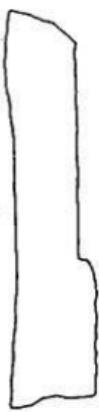
232



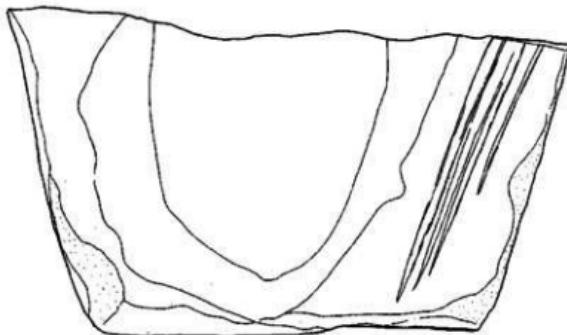
第28圖 出土石器 (3)



233

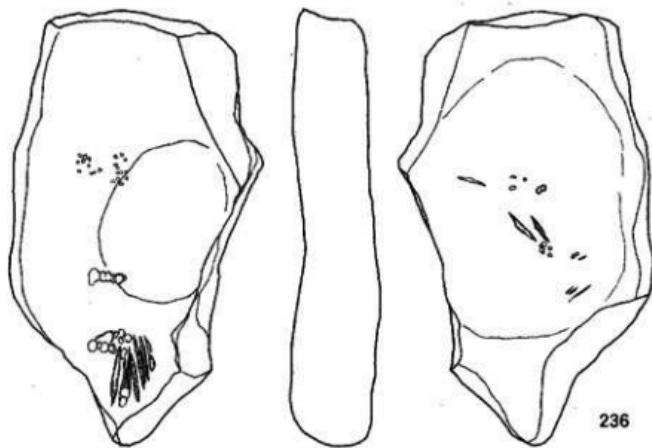


234

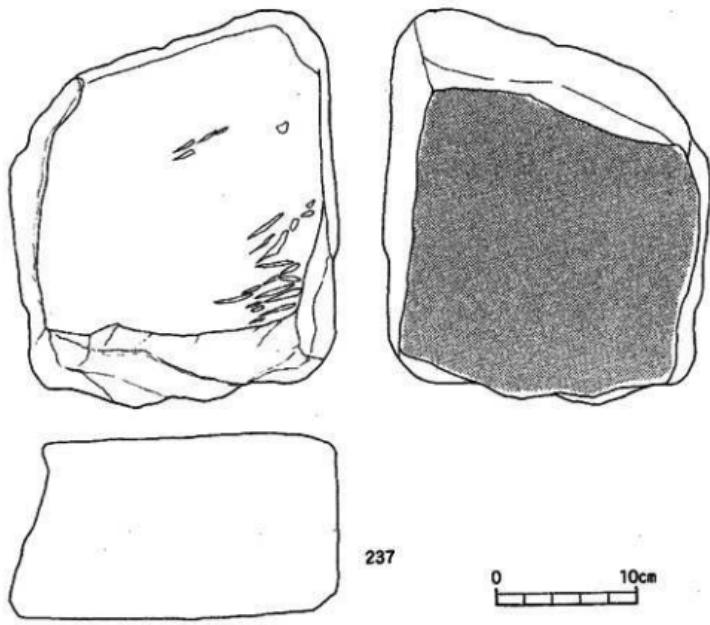


0 10cm

第29図 出土石器 (4)



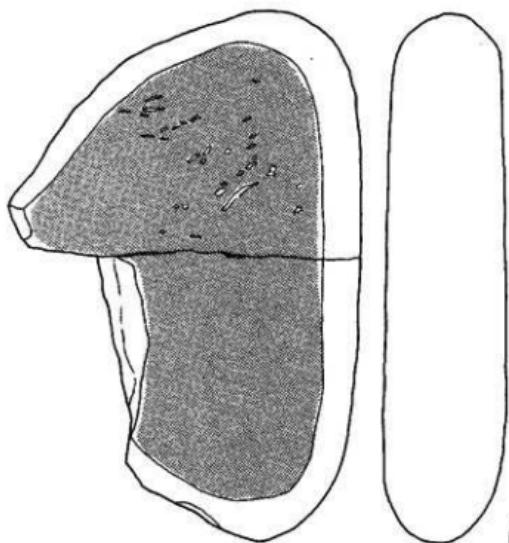
236



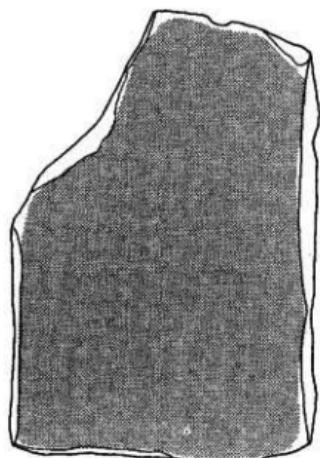
237

0 10cm

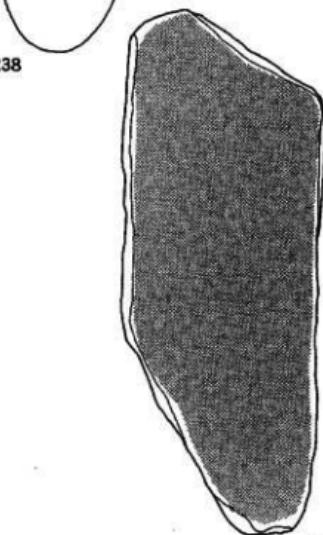
第30図 出土石器 (5)



238



239



240

0 10cm

第31図 出土石器 (6)

第2表 西原A遺跡土器観察表(1)

検査番号	遺物番号	出土区	層	胎	土	焼成	色調	外面調整	内面調整	備考
第 13 回	1	B-3	田	石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黄白色	研磨、凹線	研磨、凹線		
	2	B-2		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黑色	研磨、凹線	研磨、凹線		
	3	D-5		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	褐色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	4	D-5		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黒褐色	研磨、凹線	研磨、凹線	穿孔有り	
	5	D-5		石美・長石・砂粒	良好	暗灰色	研磨、沈線	研磨、沈線	リボン	
	6	B-3		石美・長石・砂粒	良好	黃灰色	研磨、凹線	研磨		
	7	D-5		石美・長石・砂粒	良好	淡褐色	研磨	研磨、沈線		
	8			石美・長石・砂粒	良好	黒褐色	研磨、凹線	研磨		
	9			石美・長石・砂粒	良好	淡赤褐色	研磨	研磨		
	10	A-2		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	淡褐色	研磨、沈線	研磨		
第 14 回	11	A-3		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黒褐色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	12	A-3		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	暗褐色	研磨、沈線	研磨		
	13	A-4		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	灰褐色	研磨、沈線	研磨	リボン	
	14	D-5		石美・長石・砂粒	良好	黃灰色	研磨、沈線	研磨		
	15			石美・長石・砂粒	良好	黃灰色	研磨、凹線	研磨		
	16	A-3		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	黒褐色	研磨、沈線	研磨、沈線	穿孔有り	
	17	A-2		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	褐色	研磨、凹線	研磨		
	18	A-2		石美・長石・細砂粒	良好	灰白色	研磨	研磨		波状突起
	19	D-5		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	淡黃褐色	研磨、凹線	研磨、沈線		
	20	1号土		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黒褐色	研磨、沈線	研磨、沈線	穿孔有り	
第 15 回	21	D-5		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黃灰色	研磨、凹線	研磨、凹線		
	22			石美・長石・砂粒	良好	暗灰色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	23	A-2		石美・長石・角閃石・細砂粒	良好	黑色	研磨、沈線	研磨		
	24			石美・長石・砂粒	良好	暗灰色	研磨、沈線	研磨		
	25	B-2		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	淡赤褐色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	26			石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黒褐色	研磨、凹線	研磨		穿孔有り
	27	A-3		石美・長石・細砂粒	良好	暗赤褐色	研磨	研磨		
	28	D-5		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	灰色	研磨、沈線	研磨		
	29			石美・長石・角閃石・砂粒	良好	褐色	研磨、沈線	研磨		
	30			石美・長石・角閃石・砂粒	良好	淡褐色	研磨、沈線	研磨		
第 15 回	31	B-3		石美・長石・砂粒	良好	黒褐色	研磨、沈線	研磨		
	32	D-5		石美・長石・礫砂粒	良好	暗灰色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	33	B-3		石美・長石・砂粒	良好	暗灰色	研磨	研磨、沈線		
	34			石美・長石・角閃石・砂粒	良好	暗灰色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	35	D-5		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	暗褐色	研磨、沈線	研磨		炭化物付着
	36	D-5		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	黃灰色	研磨、沈線	研磨		
	37	D-5		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	褐色	研磨、凹線	研磨		
	38	D-5		石美・長石・砂粒	良好	黑色	研磨、沈線	研磨		
	39	A-3		石美・長石・角閃石・砂粒	良好	淡赤褐色	研磨	研磨、沈線		
	40			石美・長石・角閃石・砂砾	良好	暗灰色	研磨	研磨		
	41			石美・長石・砂粒	良好	暗灰色	研磨	研磨		
第 15 回	42	B-1		石美・長石・砂粒	良好	黑色	研磨、沈線	研磨、沈線		
	43	D-5		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	黒褐色	工具ナデ	研磨		
	44	B-3		石美・長石・砂粒	良好	淡赤褐色	研磨	研磨		
	45			石美・長石・砂粒	良好	暗赤褐色	研磨	研磨		
	46	B-1		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	暗赤褐色	研磨	研磨		
	47	D-5		石美・長石・角閃石・砂砾	良好	暗赤褐色	研磨	研磨		
	48			石美・長石・角閃石・砂粒	良好	暗褐色	研磨	研磨		炭化物付着
	49			石美・長石・角閃石・砂粒	良好	暗褐色	研磨	研磨		
	50	A-2		石美・長石・砂粒	良好	暗灰色	研磨	研磨		穿孔有り

第3表 西原A遺跡土器観察表(2)

探査番号	遺物番号	出土区	層	胎	土	焼成	色調	外面調整	内面調整	備考
15 図	5 1	B - 3	III	石英・長石・砂礫		良好	暗赤褐色	研磨	研磨	穿孔有り
	5 2			石英・長石・砂粒		良好	暗赤褐色	研磨	ナデ	
	5 3			石英・長石・角閃石・砂粒		良好	暗赤褐色	研磨	研磨	
	5 4	D - 5		石英・長石・角閃石・砂粒		良好	褐色	研磨	研磨	
	5 5	A - 2		石英・長石・金雲母・砂礫		良好	赤褐色	研磨	ナデ	
	5 6	D - 5		石英・長石・砂粒		良好	黒褐色	研磨	研磨	
	5 7	D - 5		石英・長石・粗砂粒		良好	褐色	研磨	研磨	
	5 8	B - 2		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	褐色・灰褐色	研磨	研磨	
	5 9	A - 2		石英・長石・砂粒		良好	黒灰色	研磨	研磨・ナデ	
16 図	6 0	A - 2		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗赤褐色	ナデ・工具ナデ・突帯	条痕	炭化物付着
	6 1	D - 6		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	赤褐色	条痕・突帯	研磨	
	6 2	B - 2		石英・長石・砂礫		良好	黒褐色・灰白色	研磨・突帯	研磨	
	6 3	B - 1		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	褐色・赤褐色	ナデ・突帯	ナデ	
	6 4			石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黄灰色	工具ナデ・突帯	ナデ	
	6 5			石英・長石・砂礫		良好	暗赤褐色	ナデ・突帯	ナデ	
	6 6	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	条痕・突帯	条痕	
	6 7	B - 3		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	ナデ	
	6 8	A - 2		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ・突帯	ナデ	
	6 9	A - 3		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗赤褐色	ナデ・突帯	ナデ	
17 図	7 0	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	ナデ	ナデ	炭化物付着
	7 1			石英・長石・砂礫		良好	黄褐色	研磨・突帯	研磨	
	7 2	A - 3		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ・突帯・沈線	研磨・沈線	円形浮文
	7 3	A - 3		石英・長石・砂礫		良好	暗赤褐色	工具ナデ	研磨	
	7 4	A - 2		石英・長石・砂礫		良好	黄灰色	条痕	ナデ	
	7 5			石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	
	7 6			石英・長石・角閃石・砂礫		やや不良	黄褐色	ナデ・沈線	不明	
	7 7	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	赤褐色	ナデ・沈線	ナデ	
	7 8	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	ナデ	工具ナデ	炭化物付着
	7 9			石英・長石・角閃石・砂礫		やや不良	黄灰色	不明・沈線	不明	
18 図	8 0	D - 5		石英・長石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	
	8 1			石英・長石・砂礫		良好	暗褐色	工具ナデ・研磨	条痕後研磨	炭化物付着
	8 2	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
	8 3	B - 3		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	ナデ	研磨	炭化物付着
	8 4	A - 2		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗赤褐色	工具ナデ	貝殻条痕	炭化物付着
	8 5	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗赤褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
	8 6	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	赤褐色	工具ナデ	研磨	
	8 7	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	穿孔有り
	8 8			石英・長石・砂礫		良好	灰褐色	工具ナデ	工具ナデ	炭化物付着
	8 9	B - 3		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黄白色	研磨	研磨	炭化物付着
	9 0	B - 2		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	9 1	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	灰褐色・赤褐色	工具ナデ・研磨	ナデ・研磨	炭化物付着
	9 2	A - 2		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黄褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	9 3			石英・長石・角閃石・砂礫		良好	灰褐色	条痕後ナデ	ナデ	
	9 4	A - 3		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	灰白色	条痕	ナデ	
	9 5	D - 5 - 6		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
	9 6			石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗赤褐色	条痕	工具ナデ	
	9 7	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	褐色・赤褐色	条痕後ナデ	研磨	
	9 8	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	黒褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	9 9	B - 1		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	淡褐色	ナデ	研磨	
	1 0 0	D - 5		石英・長石・角閃石・砂礫		良好	暗褐色	ナデ	ナデ	

第4表 西原A遺跡土器観察表(3)

地図番号	遺物番号	出土区	層	胎	土	焼成	色調	外面調整	内面調整	備考
第18回	101	A-2	Ⅲ	石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	ナデ・条痕	研磨	
	102			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色・赤褐色	研磨	研磨	
	103	B-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色・褐色	条痕	ナデ	
	104	B-3		石英・長石・金雲母・砂粒		良好	褐色・褐色	ナデ	研磨	
	105	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
	106	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	ナデ・条痕	ナデ	炭化物付着
	107			石英・長石・角閃石・金雲母・砂隕		良好	暗褐色・褐色	工具ナデ	工具ナデ・研磨	炭化物付着
	108	D-5		石英・長石・砂隕		良好	黃褐色	工具ナデ	ナデ	
	109	A-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒色・深褐色	条痕	研磨	
	110	D-5		石英・長石・砂隕		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
第19回	111	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
	112	A-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	褐色・黒色	工具ナデ	研磨	
	113	D-5		石英・長石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	工具ナデ	炭化物付着
	114	B-1		石英・長石・金雲母・砂隕多い		良好	暗褐色	工具ナデ	ナデ	
	115	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒色・淡褐色	工具ナデ	研磨	
	116	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黃褐色・黒色	条痕後ナデ	研磨	
第20回	117			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黃褐色	工具ナデ	不明	
	118	D-5		石英・長石・砂隕		良好	暗褐色	工具ナデ	条痕後研磨	
	119	B-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黃灰色	工具ナデ	研磨	
	120	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色・黒色	貝殻条痕	研磨	
	121			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	条痕	ナデ	
	122	D-5		石英・長石・砂隕		良好	黒褐色	条痕後研磨	研磨	
	123	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色・黒色	条痕後研磨	研磨	
	124	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	赤褐色・黄褐色	条痕	工具ナデ	
	125	D-5		石英・長石・砂隕		良好	黃白色	条痕	ナデ	不明
	126			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡褐色	工具ナデ	工具ナデ・研磨	
第21回	127	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡褐色	条痕	不明	
	128	D-5		石英・長石・砂隕		良好	赤褐色	貝殻条痕	不明	
	129			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黃褐色	研磨	研磨	
	130	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	工具ナデ	研磨	
	131			石英・長石・砂隕		良好	暗赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ	
	132	A-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	褐色・暗褐色	研磨	研磨	
第22回	133	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕多し		良好	灰褐色・暗褐色	工具ナデ	不明	
	134	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	研磨	ナデ・工具ナデ	
	135	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	赤褐色	ナデ	ナデ・研磨	
	136	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	灰褐色	条痕	ナデ	
	137	B-4		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗灰色	条痕後研磨	条痕後研磨	
	138	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黃白色	工具ナデ	ナデ	
	139	B-4		石英・長石・砂隕		良好	黑褐色	研磨	研磨	
	140			石英・長石・貝殻・砂隕		良好	暗褐色	研磨	研磨	
	141			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡褐色	工具ナデ	ナデ・研磨	
	142			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	研磨	炭化物付着
第23回	143	D-5		石英・長石・砂隕		良好	暗灰褐色	条痕	条痕	
	144			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	貝殻条痕・条痕	ナデ	
	145			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	工具ナデ	研磨	炭化物付着
	146	A-2		石英・長石・砂隕		良好	暗褐色	条痕	ナデ	
	147	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	条痕・工具ナデ	不明	
	148	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	条痕	炭化物付着
	149			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	条痕	リボン	
	150			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	ナデ	ナデ・目洗痕	

第5表 西原A遺跡土器観察表(4)

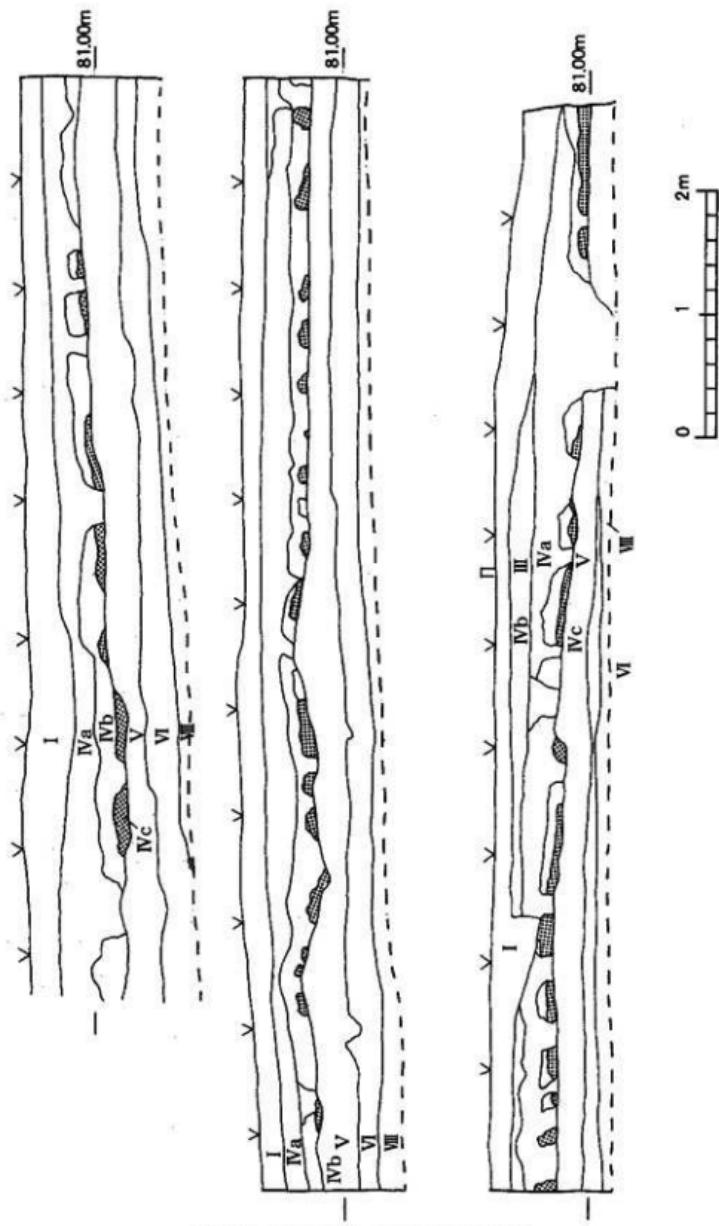
持区番号	遺物番号	出土区	層	胎	土	焼成	色調	外面調整	内面調整	備考
第21図	151		III	石英・長石・砂隕		良好	黒褐色	研磨	研磨	
	152	D-5		石英・長石・砂隕		良好	赤褐色	条痕	ナデ	
	153	B-2		石英・長石・砂隕多い		良好	黄灰色	条痕	ナデ	リボン・炭化物付着
	154	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	褐色	ナデ	不明	
	155	A-3		石英・長石・角閃石・金雲母・砂隕		良好	赤褐色	ナデ	工具ナデ	
第22図	156	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	ナデ	条痕	
	157	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	ナデ	工具ナデ・一部ナデ	炭化物付着
	158	A-3		石英・長石・金雲母・砂隕		良好	赤褐色	ナデ・工具ナデ	不明	
	159	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	赤褐色	ナデ	工具ナデ	
	160	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡褐色	工具ナデ	研磨	
	161			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡黄褐色	条痕	研磨	
	162	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄灰色	研磨	工具ナデ	
	163	A-2		石英・長石・砂隕		良好	黄褐色	工具ナデ	研磨	
	164	A-2		石英・長石・角閃石・砂隕が多い		良好	黄灰色	条痕	ナデ	
	165	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	ナデ	丁寧な工具ナデ	炭化物付着
	166	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	工具ナデ	炭化物付着
	167	A-2		石英・長石・砂隕		良好	黒褐色・細色	条痕	ナデ	
	168	D-5		石英・長石・砂隕		良好	暗褐色	工具ナデ	工具ナデ	炭化物付着
	169	B-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒・淡褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	170	B-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄灰色	条痕後ナデ	貝殻条痕	
	171	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄白色・灰色	条痕	ナデ	
第23図	172	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡褐色	条痕	不明	
	173	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	条痕	不明	
	174	D-5		石英・長石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	工具ナデ	炭化物付着
	175	B-1		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗褐色	条痕	不明	炭化物付着
	176	B-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄灰色	条痕	工具ナデ	炭化物付着
	177	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕後ナデ	ナデ	炭化物付着
	178	B-3		石英・長石・砂隕		良好	灰色	工具ナデ	条痕	
	179	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄褐色	条痕	ナデ	炭化物付着
	180	A-2		石英・長石・砂隕		良好	褐色	貝殻条痕	条痕後ナデ	
	181	A-2		石英・長石・砂隕		良好	黄褐色	工具ナデ	不明	
	182	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	工具ナデ	不明	
	183	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄白色	ナデ	貝殻条痕	
	184	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄灰色	工具ナデ	貝殻条痕	
	185	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	炭化物付着
第24図	186	D-6		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	褐色・深灰色	貝殻条痕	貝殻条痕	炭化物付着
	187	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	不明	炭化物付着
	188			石英・長石・砂隕		良好	黄灰色	貝殻条痕	工具ナデ	
	189	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕		
	190	A-2		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	赤褐色	条痕	条痕	
	191			石英・長石・砂隕		良好	赤褐色	条痕	条痕	
	192			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	灰褐色	条痕	工具ナデ	炭化物付着
	193	A-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	細胞・暗灰色	貝殻条痕	条痕後ナデ	
	194	B-3		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄灰色	工具ナデ	貝殻条痕	
	195			石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄褐色	工具ナデ	条痕	
	196	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	淡褐色	条痕	ナデ	炭化物付着
	197	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	暗赤褐色	条痕・研磨	工具ナデ	
	198	D-5		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黒褐色	条痕	研磨	
	199			石英・長石・角閃石・砂隕多い		良好	灰色	条痕	工具ナデ	
第25図	200	D-6		石英・長石・角閃石・砂隕		良好	黄褐色	ナデ	ナデ・貝殻条痕	

第6表 西原A遺跡土器観察表(5)

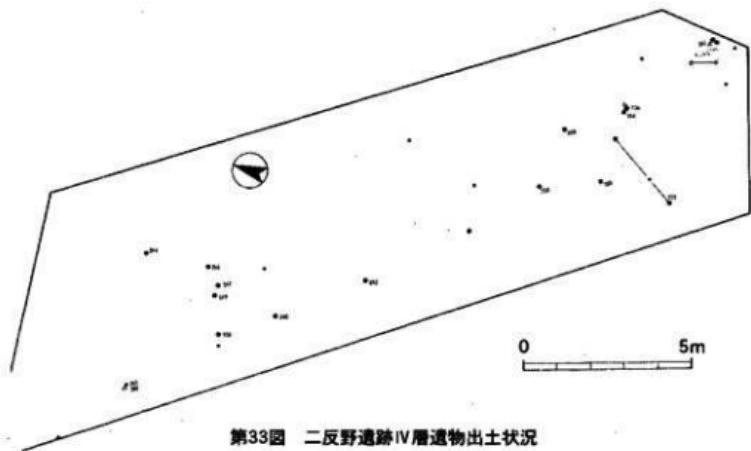
拂区番号	遺物番号	出土区	層	胎 土	焼成色調	外面調整	内面調整	備 考
第 25 回	201	A-3	III	石英・長石・角閃石・砂礫	良好 赤褐色	ナデ	ナデ	底部圧痕
	202	B-1		石英・長石・角閃石・砂礫	良好 赤褐色	ナデ	ナデ	
	203	D-5		石英・長石・角閃石・砂礫	良好 赤褐色	ナデ	ナデ	
	204	D-5		石英・長石・角閃石・砂礫	良好 赤褐色	ナデ	ナデ	
	205	D-5		石英・長石・角閃石・砂礫	良好 茶褐色	工具ナデ	ナデ	
	206	B-2		石英・長石・角閃石・砂礫	良好 明赤褐色	ナデ	ナデ	
	207	A-3		石英・長石・角閃石・砂礫	良好 黄白色	ナデ	条痕	

第7表 西原A遺跡石器計測表

No	器 様	石 材	区	層	最大長cm	最大幅cm	厚さcm	重量 g	備 考
209	玉	軟玉	A-3	III a	2.06	1.44	0.56	1.80	
210	石 鑿	チャート	A-3		1.99	1.50	0.445	1.05	
211	石 鑿	黒曜石	D-5		1.63	1.37	0.325	0.50	
212	石 鑿	頁岩	A-3		1.80	1.38	0.285	0.52	
213	石 鑿	チャート	A-2		2.47	1.89	0.825	3.03	
214	石 鑿	チャート	A-2		(1.515)	(1.48)	(0.420)	(0.85)	
215	石 鑿	チャート	A-2		(1.90)	(1.29)	(0.585)	(1.17)	
216	石 匙	チャート		表	3.21	3.45	1.08	8.97	
217	打製石斧	頁岩		III a	(7.7)	(6.4)	(1.0)	(60)	
218	打製石斧	頁岩		III a	6.7	7.2	1.97	0.54	
219	打製石斧	頁岩		表	12.9	8.0	1.3	170	
220	不 明	頁岩		表	(7.9)	(3.4)	(1.4)	60	
221	敲 石	砂 岩	A-3	III a	6.0	4.6	1.9	7.5	
222	敲 石	砂 岩	A-2		7.3	6.8	2.7	190	
223	敲 石	砂 岩	B-3		11	9.5	7.8	1,150	
224	敲石・磨石	砂 岩	A-2		12.0	9.9	4.5	700	
225	敲石・磨石	花崗岩	D-5		14.6	10.2	5.2	1,170	
226	敲石・磨石	砂 岩	A-3		11.4	9.9	4.2	665	
227	敲石・磨石	砂 岩	B-2		12.9	10.6	5.4	1,000	
228	敲石・磨石	砂 岩	A-3		17.4	11.9	8.7	2,360	
229	敲石・磨石	砂 岩	B-2		(10.8)	(5.3)	(4.5)	(370)	
230	有溝石鍤	砂 岩	A-3		4.7	7.3	1.5	88	
231	凹 石	花崗岩	A-2		(6.9)	(5.7)	(2.7)	(170)	
232	敲石・磨石	砂 岩			17.3	13.4	6.5	2,100	
233	石 盆	砂 岩	A-2		(22.0)	(15.8)	(4.5)	(1,850)	
234	石 盆	砂 岩	A-2		(12.0)	(9.9)	(4.5)	(700)	
235	石 盆	砂 岩	E-5		(17.8)	(29.9)	(5.6)	(4,800)	
236	石 盆	砂 岩			31.0	18.0	6.4	4,600	
237	台 石	砂 岩	A-2		28.1	22.8	13.1	12,350	
238	台 石	砂 岩	B-5		28.2	18.5	6.4	4,100	
239	台 石	砂 岩			24.0	16.2	2.7	1,850	
240	台 石	砂 岩	A-3		37.4	14.2	8.3	600	



第32図 二反野遺跡 土層断面図(東壁)



第33図 二反野遺跡IV層遺物出土状況

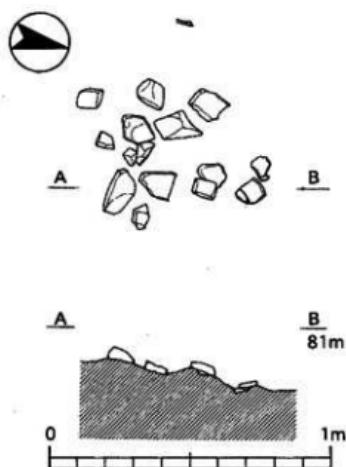
第3節 二反野遺跡の調査

1、調査の概要

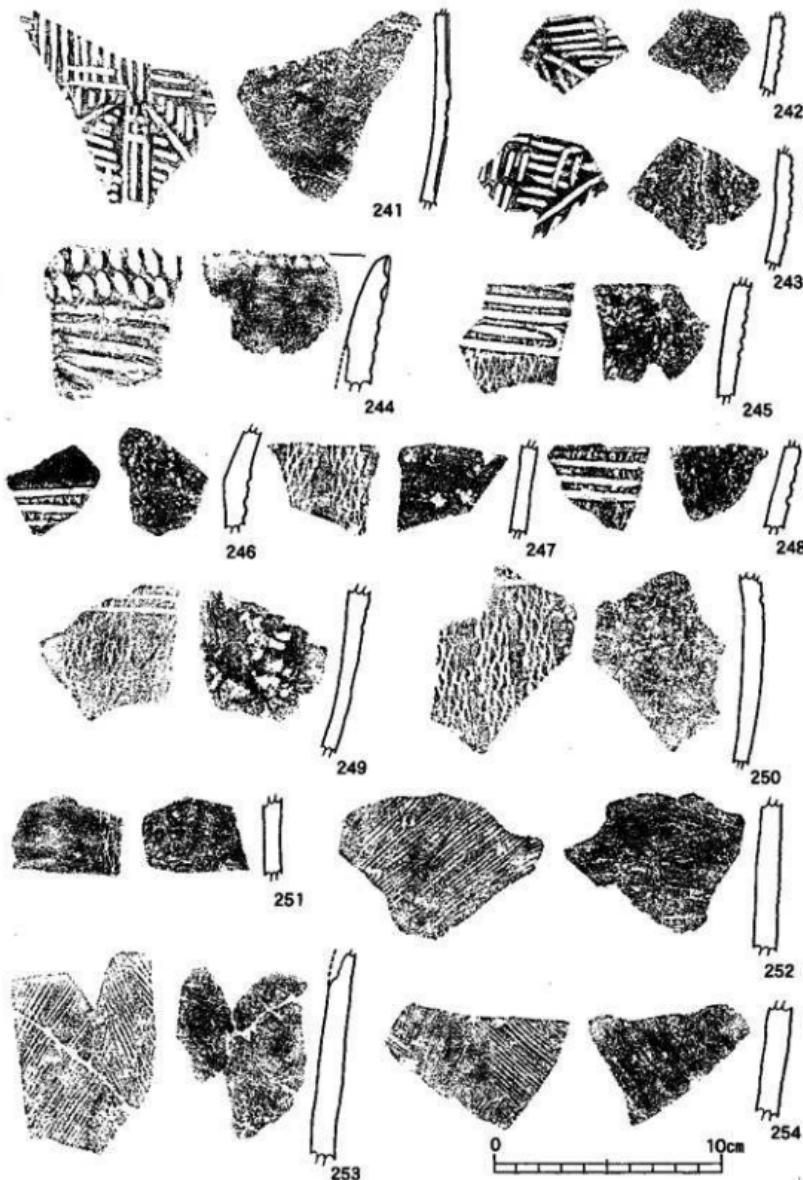
二反野遺跡については、道路取りつけ部分について緊急発掘調査を実施した。二反野遺跡はボーリング調査によって、縄文時代前期の遺物が出土し、さらに晩期の遺物が表探された。

地形的にもさらに縄文時代早期や旧石器時代の遺跡である可能性が強かった。ために大部分は盛土工法によったが、道路部分についてのみ緊急発掘調査を行った。期間は12月18日から12月21日までの4日間に約180m²について調査を行った。調査は表土を重機によって除去、Ⅲa層の上面で遺構検出作業を行い遺構の確認後はりさげた。以下層序にしたがって、遺構を確認して行った。

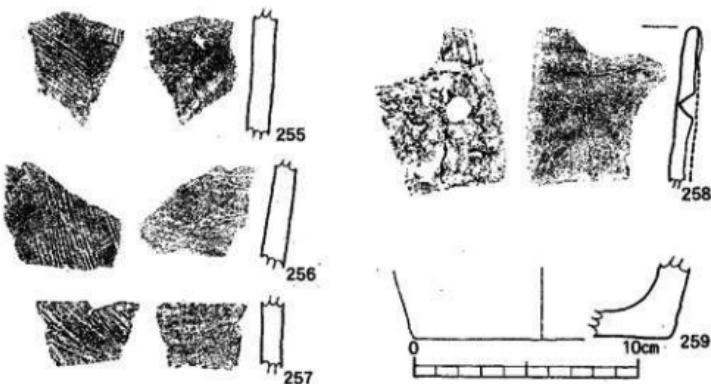
この結果、Ⅲa層から曾畠式土器が出土した。IV層からは、集石1基と寒ノ神式土器と、吉田式土器と石板式の可能性のある条痕文土器、石器が出土した。集石については、どの土器形式に伴うものかは確定的ではないが第33図のIV層の遺物出土状況から条痕文土器に伴う可能性が強い。全体的に出土状況はまばらであった。各



第34図 二反野遺跡 1号集石



第35図 二反野遺跡出土土器 (1)



第36図 二反野遺跡出土土器 (2)

時期での遺跡の中心部にはあたらなかったようである。第32図の土層断面図から、原地形は北に向かって上がっていたことが何われ、削平されたのは北の尾根部分であったことがわかる。また、尾根にあたるため流出したものか、VI層のいわゆる「サツマ」がごく一部にしか観察されなかつた。

2. 遺物（第35図～第38図）

土器は241～243が曾畠式土器である。短沈線を施し、内面はナデている。滑石は含んでいない。244は、口縁部に2段に刻目を施し、以下は貝殻を押し引いている。吉田式である。245～250は塞ノ神式土器である。区画せずに網目撚糸文を施している。251～257は条痕文土器である。条痕をいわゆる羽状に方向を変えながら施すもので、石坂式の胸部であろう。258は口縁部に縱方向に短沈線を施している。器面は剥落しているが、吉田式ではなかろうか。259底部で、貝殻文円筒形土器の底部と考えられる。

石器は、磨製石斧・敲石・石皿・台石が出石している。260は、磨製石斧の基部に当たると考えられる。擦痕が前全面に観察される。261・262は、敲石で全周に敲打痕があり、平坦面にもわずかに敲打痕がうかがわれる。263は、磨石と敲石の両方に使用されたものである。

264は、片面がわずかに凹面になっていて、その面が平滑であり石皿として使用されたものである。一方両側縁部に敲打痕があり敲石としてもつかわれている。265も平滑に擦られたところと、敲打によってくほんだ所がある。261・262の敲打痕と263～265の敲打痕は、形状が異なっている。266は、細い方の先端部分に敲打痕があり、平坦面は滑である。

第8表 二反野遺跡出土土器観察表

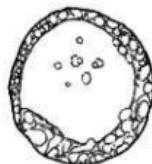
井図番号	遺物番号	層	胎 土	焼成	色 調	外面調整(文様)	内面調整	備 考
第 35 図	241	IV上	石英・長石・角閃石	良好	暗赤褐色	沈線	ナデ	炭化物付着
	242		石英・長石・角閃石	良好	暗赤褐色	沈線	ナデ	炭化物付着
	243		石英・長石・角閃石	良好	暗赤褐色	沈線	ナデ	炭化物付着
	244		石英・長石・角閃石	良好	淡黄褐色	割目(ヘラ)・貝殻押し引き	ナデ	
	245	V	石英・長石・角閃石	良好	暗褐色	沈線、網目状燃え文	ナデ	
	246		石英・長石・角閃石	良好	黄白色	沈線、網目状燃え文	ナデ	
	247		石英・長石・角閃石	良好	黒褐色	網目状燃え文	ナデ	
	248		石英・長石・角閃石	良好	淡褐色	沈線、網目状燃え文	不明	
	249	V	石英・長石・角閃石	良好	褐色	沈線、網目状燃え文	ナデ	
	250		石英・長石・角閃石	良好	黄褐色	沈線、網目状燃え文	ナデ	
	251		石英・長石・角閃石	良好	褐色	網目状燃え文	条痕	
	252		石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	条痕	工具ナデ	
	253		石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	条痕	工具ナデ	
	254		石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	条痕	工具ナデ	
第 36 図	255	V	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	条痕	工具ナデ	
	256		石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	条痕	工具ナデ	
	257	表	石英・長石・角閃石	良好	黄褐色	条痕	工具ナデ	
	258	V	石英・長石・角閃石	良好	灰色	網目状燃え文	ナデ	穿孔の痕跡
	259		石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	条痕	ナデ	

第9表 二反野遺跡石器計測表

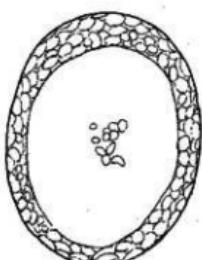
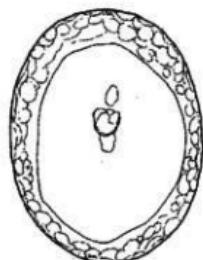
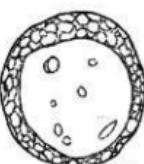
No.	器種	石材	層	最大長cm	最大幅cm	厚さg	重量g	備考
260	磨製石斧	蛇紋岩	V	(7.8)	(5.5)	(3.2)	(150)	
261	敲 石	砂 岩	V	8.5	7.7	5.7	450	
262	敲 石	砂 岩	表	13.8	10.3	5.0	118	
263	敲石・磨石	砂 岩	V	8.0	6.6	4.0	250	
264	石 盤	砂 岩	V	16.3	11.1	6.6	1,550	
265	石 盤	砂 岩	V	(12.6)	(7.2)	(4.0)	(600)	
266	不 明	砂 岩	表	10.7	5.3	1.8	150	
267	台 石	砂 岩	V	(22.4)	(20.4)	(5.5)	(2,760)	



260



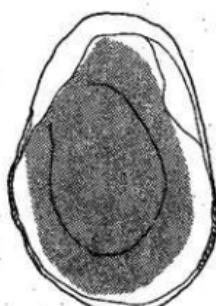
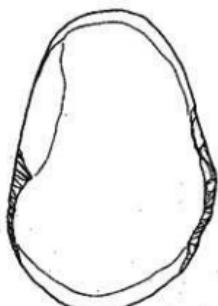
261



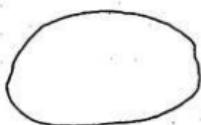
262



263



264



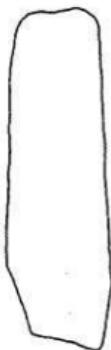
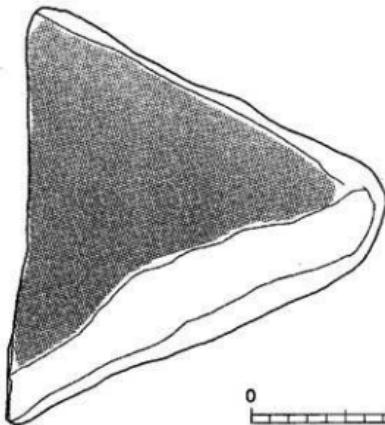
第37図 二反野遺跡出土石器 (1)



265



266



267

第38図 二反野遺跡出土石器 (2)

第4章 まとめ

西原A遺跡は縄文時代晩期の黒川式期の遺跡である。黒川式の単純遺跡であったが全体的に表土層に近く、搅乱のためか遺構が不明土坑1基のみで明確に把握できなかつたことが悔やまれる。黒川式の土器と、軟玉製勾玉、土製勾玉、石鏃、石匙、磨石、敲石、石皿などが出土した。軟玉製勾玉、土製勾玉が出土地点は異なるが、同じ遺跡から出土し、貴重な資料であると考える。

黒川式については、鹿屋市榎木原遺跡、川内市成岡遺跡でセット関係が把握された。しかしながら深鉢形土器(変形土器)〔注1〕については型式的に細分の作業が下山覚によつて行われてゐるもの、それぞれの器種についての型式学的な分析とセット関係については、まだ十分把握できたとは言いがたい。本遺跡においては、精製土器にしても、粗製土器にしても、器種が多く出土しており、黒川式の実態にせまる資料が出土した。量的には、内面に粗い研磨を施す粗製浅鉢形土器が多く見られた。突帯をもつ鉢形土器については、後の突帯文土器との関係が興味深い課題である。黒川式の深鉢形土器は細分は、その他の器種についても細分の可能性

を示すもので、とくに精製土器については、資料が増加するに従って明確にされて行くだろう。精製浅鉢形土器については、御領式から上加世田式→入佐式→黒川式の流れの中で、口縁部の立ち上がり部分の変化と、口辺部（頸部）の外反と内側への稜の形成を追って考察されている。

これらと合わせて、口縁部の外反が強まり、口縁部から短くなり肩部が張り出す形に変化することは明らかであり、黒川式の中でのこの器種の細分はこの型式の流れに乗って十分行えると考える。土器の説明の中でも触れたが、肩部に後のあるものからないものへと変化するものと考えられる。リボン状突起もかなり形が崩れており、突帯をもつ鉢形土器の存在が突帯文につながって行くとすると、本遺跡出土の土器は黒川式でも後半の時期に当たるとも判断される。

軟玉製の勾玉は、鹿児島県においては、鹿屋市飯盛ヶ岡遺跡で黒川式に伴って出土し、ヒスイ製の勾玉などの玉類と大珠が加世田市上加世田遺跡で上加世田式に伴って出土している。土製勾玉などの玉類と大珠が加世田市上加世田遺跡で上加世田式に伴って出土している。縄文時代の勾玉は後期から晩期にかけて出土するが、鹿児島県においてはいまのところ晩期（注2）が中心であるようである。貝塚から出土する猪牙製の垂飾品やサメ歯の垂飾品の存在は、この時期の前後の時期で出土しており、この時期でも予想されるので、そうしたものに混じって使用されたものであろう。

二反野遺跡はボーリング調査によって、縄文時代前期の遺物が出土し、さらに晩期の遺物が表採されたため、複合遺跡の可能性が強く、盛土工法によって保存を図ることとした。ところが遺跡のある尾根部分は、ほ場への取り付け部分にあたり、道路を新たに新設・拡幅するために、その部分についての調査が必要となった。遺構は、縄文時代早期の集石遺構が1基検出され、遺物は縄文時代早期と前期の遺物が出土した。土器は縄文時代早期の壺ノ神式と、僅かに口縁部が残るだけではあるが吉田式と、同じく早期の条痕が施された石坂式と、前期の曾畠式が出土した。石器は磨製石斧、磨石、敲石、石皿などが出土した。二反野遺跡の主要部分は、大部分保存されたこの調査地点より高い尾根にある部分にあると考えられ、二反野遺跡の概要が伺われる。

注1) 下山は「壺形土器」という用語を使用している。

注2) 飯盛ヶ岡遺跡、櫻崎B遺跡については報告書は未刊行であり、それぞれの調査担当者である県文化課の中村耕治、青崎和恵によって教示を受けた。

《参考》

- ① 下山覚 「黒川式土器 細部分の為の基礎論」 『鹿大考古 第3号』 1985
　　「南部九州縄文晩期深鉢形土器の型式変化について」 1988
- 『縄文時代晩期の土器について』 沖縄考古学会・鹿児島考古学会合同研究発表要旨
- ② 河口貞德「上加世田遺跡報報」 加世田市教育委員会 1972



二反野遺跡、西原A、B遺跡遠景（対岸、北より）



同上

図版 2



表土剥ぎ



残土除去



遺構、遺物検出作業



同上



A区B区遺物状況



実測、取り上げ



1トレンチ土層



2トレンチ土層



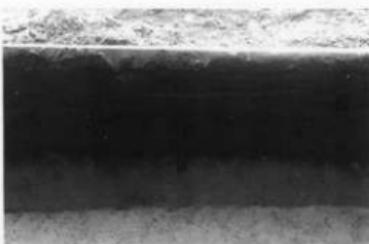
3トレンチ土層



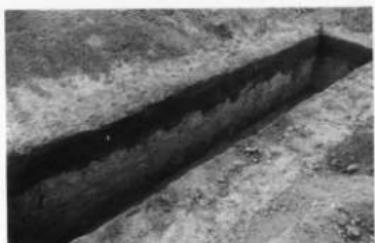
4トレンチ土層



5トレンチ土層



6トレンチ土層



10トレンチ土層



11トレンチ土層



遺物出土状況（北から）



1号土坑検出状況



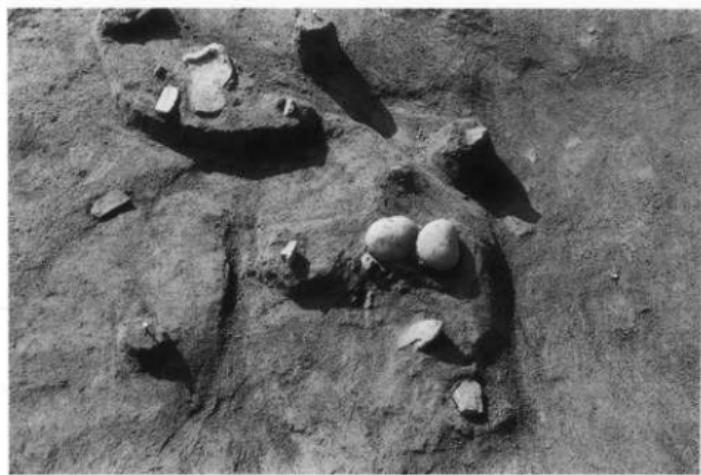
1号土坑完掘状况



1号土坑遗物出土状况



磨石、石皿等出土状况（上 面）



同 上（下 面）



穿孔土器



土製勾玉出土狀況



IIIc層上面



二反野遺跡近景



二反野遺跡遺物出土狀況



二反野遺跡 集積遺構



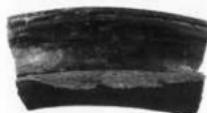
二反野遺跡遺構



二反野遺跡土層

圖版
8

西原遺跡



NO.2



NO.3



NO.5



NO.12 表面



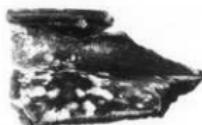
NO.12 裏面



NO.18



NO.19



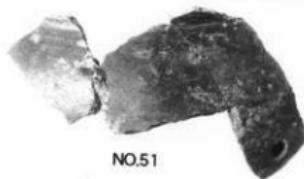
NO.20



NO.25



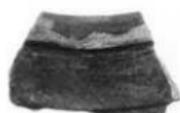
NO.40



NO.51



NO.51 裏面



NO.59



NO.60



NO.60 裏面



NO.72



NO.72 裏面



NO.99



NO.100



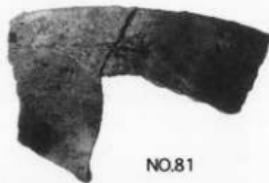
(同上) 裏



NO.80



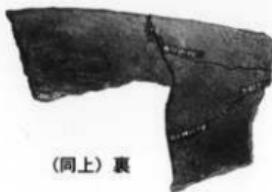
NO.80 裏面



NO.81



NO.84



(同上) 裏



(同上) 裏

圖版 10
西原遺跡



No.102



No.134



No.164



No.148



No.149



No.153



No.199



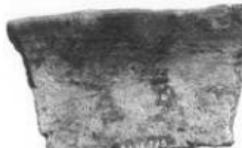
No.199 裏



No.205



No.97 研磨調查



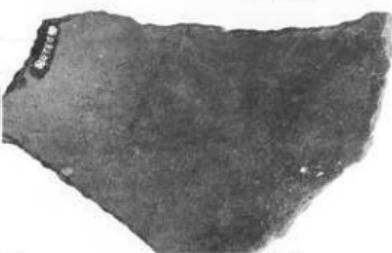
No.102 研磨調查



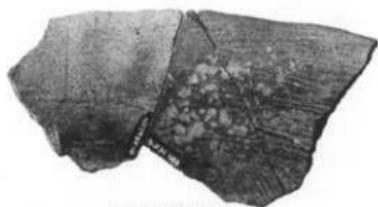
No.2 研磨



条痕後研磨



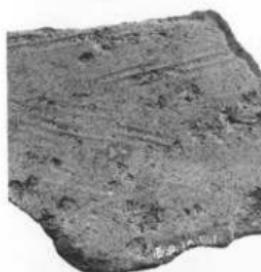
研磨



No.84 貝殻条痕



No.167 条痕



No.186 貝殻条痕



No.210



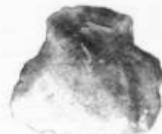
No.211



No.212



No.213



No.216



No.218



No.219



No.220



No.221



No.222

図版 12

西原遺跡

